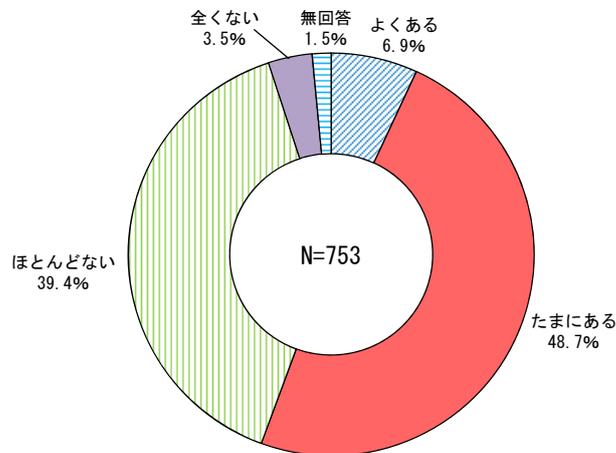


3 犯罪のない安全で安心な地域づくりについて

問1 あなたは、犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じることがありますか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「たまにある」(48.7%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「ほとんどない」(39.4%)、「よくある」(6.9%)の順となっている。

【圏域別】

「たまにある」については、道北圏(58.0%)が最も割合が高く、次いで道央圏(52.6%)となっている。「ほとんどない」については、オホーツク圏(52.3%)が最も割合が高く、次いで道南圏(48.3%)となっている。

【人口規模別】

「たまにある」については、札幌市(54.6%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(48.2%)となっている。「ほとんどない」については、町村部(46.9%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の都市(46.2%)となっている。

【性別】

「たまにある」については、男性44.5%、女性52.2%となっており、「ほとんどない」については、男性45.1%、女性35.2%となっている。

【年代別】

「たまにある」については、30～39歳(51.0%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(50.7%)となっている。「ほとんどない」については、70歳以上(55.6%)が最も割合が高く、次いで20～29歳(44.7%)となっている。

【職種別】

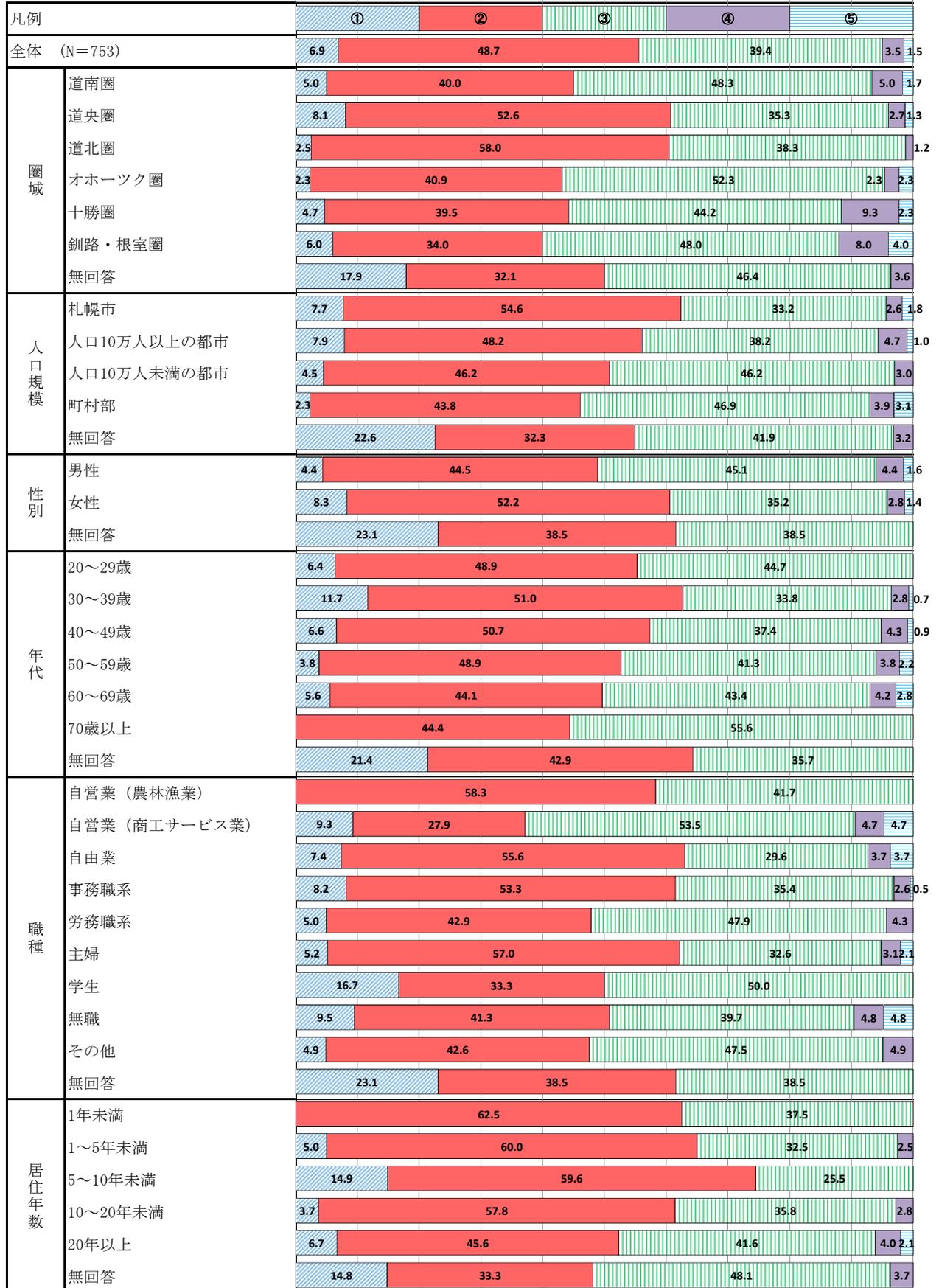
「たまにある」については、自営業(農林漁業)(58.3%)が最も割合が高く、次いで主婦(57.0%)となっている。「ほとんどない」については、自営業(商工サービス業)(53.5%)が最も割合が高く、次いで学生(50.0%)となっている。

【居住年数別】

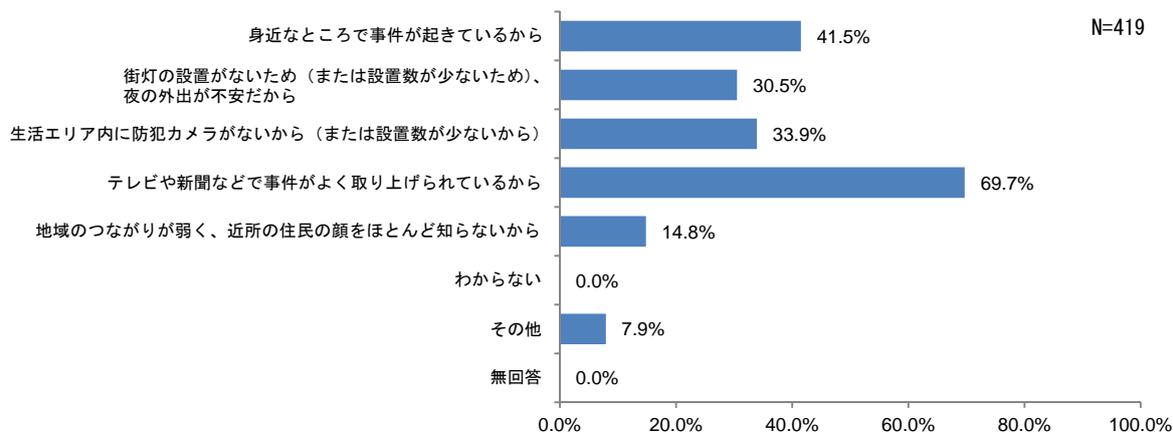
「たまにある」については、1年未満(62.5%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(60.0%)となっている。「ほとんどない」については、20年以上(41.6%)が最も割合が高く、次いで1年未満(37.5%)となっている。

①よくある ②たまにある ③ほとんどない ④全くない ⑤無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問2 ※「問1」で選択肢「1」または「2」を選んだ方のみお答えください。
 あなたが不安を感じる要因について、次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」(69.7%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「身近なところで事件が起きているから」(41.5%)、「生活エリア内に防犯カメラがないから(または設置数が少ないから)」(33.9%)の順となっている。

【圏域別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、道北圏(83.7%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室圏(80.0%)となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、十勝圏(57.9%)が最も割合が高く、次いで道南圏(44.4%)となっている。

【人口規模別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、人口10万人以上の都市(72.9%)が最も割合が高く、次いで札幌市(68.6%)となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、札幌市(46.7%)が最も割合が高く、次いで町村部(39.0%)となっている。

【性別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、男性60.0%、女性75.8%となっており、「身近なところで事件が起きているから」については、男性39.4%、女性43.0%となっている。

【年代別】

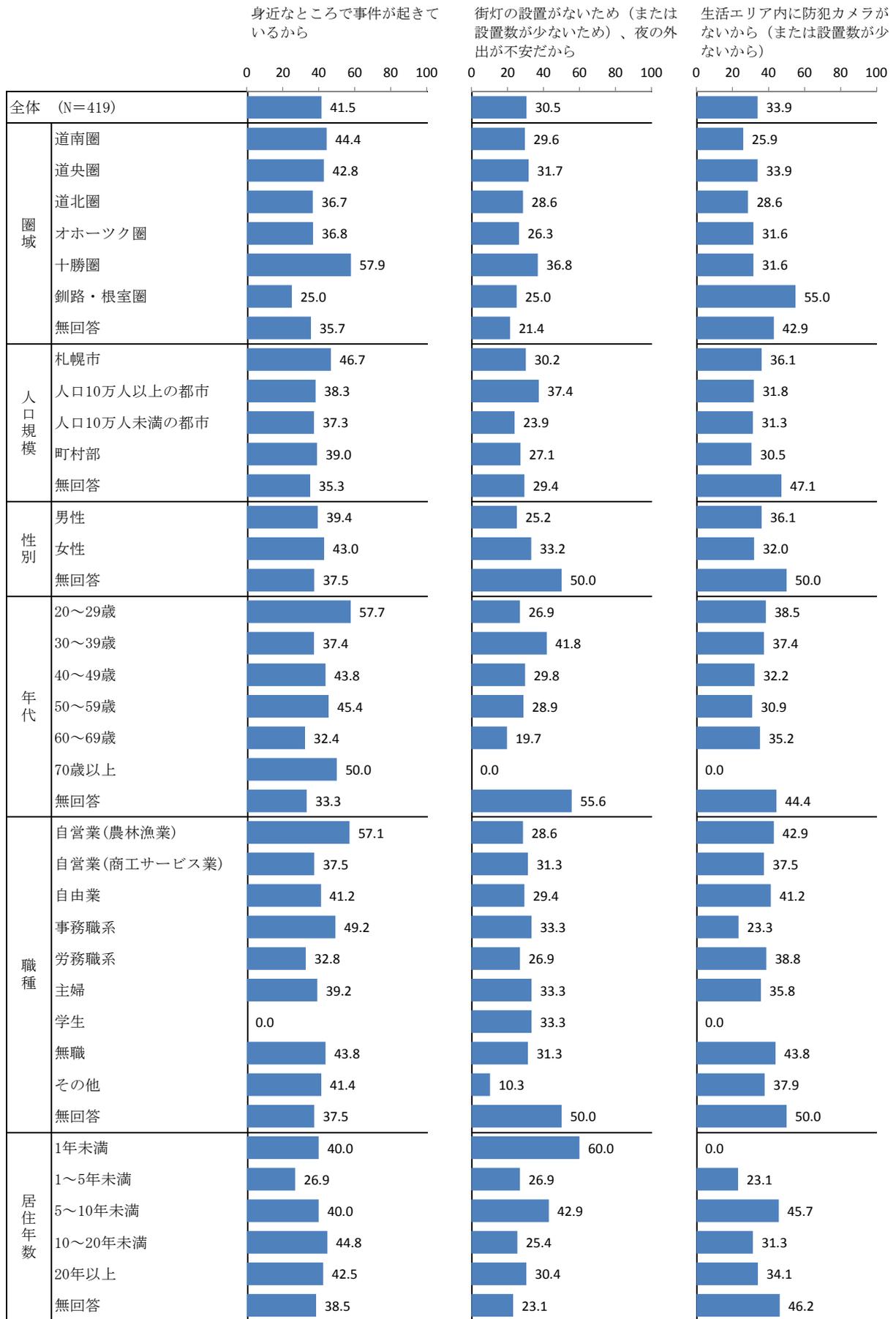
「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、70歳以上(100.0%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(74.6%)となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、20～29歳(57.7%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(50.0%)となっている。

【職種別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、自由業(82.4%)が最も割合が高く、次いで主婦(76.7%)となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、自営業(農林漁業)(57.1%)が最も割合が高く、次いで事務職系(49.2%)となっている。

【居住年数別】

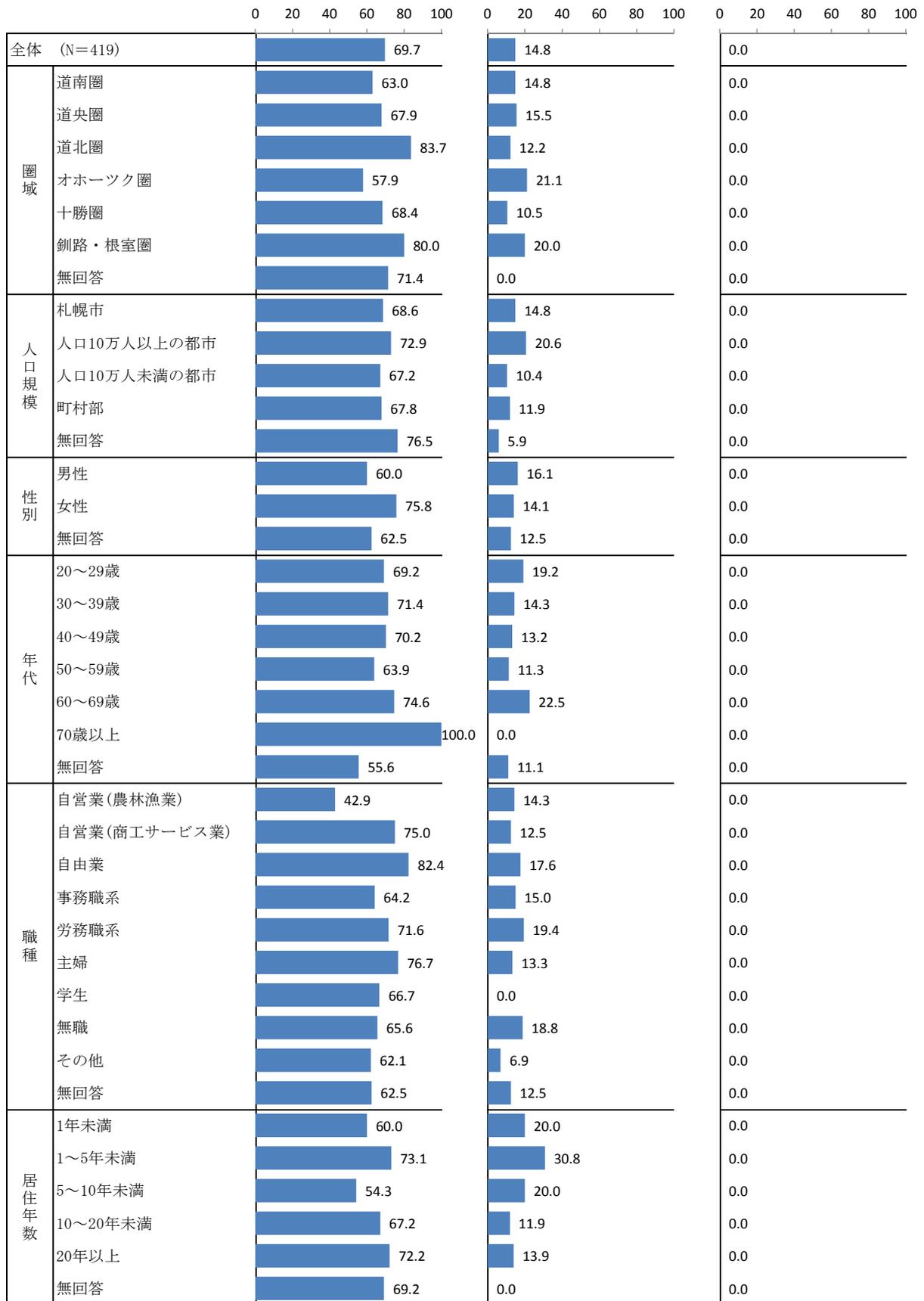
「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、1～5年未満(73.1%)が最も割合が高く、次いで20年以上(72.2%)となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、10～20年未満(44.8%)が最も割合が高く、次いで20年以上(42.5%)となっている。

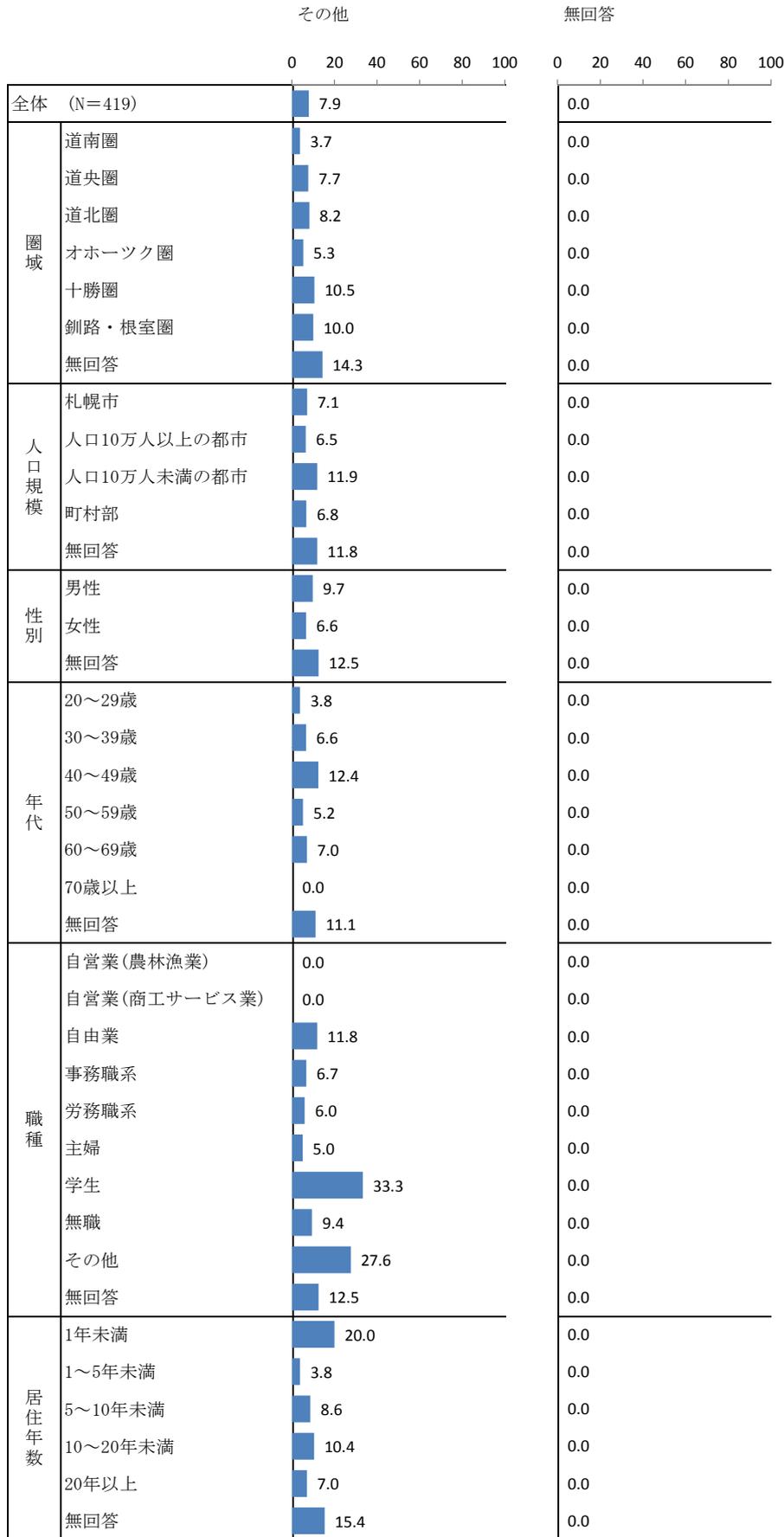


テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから

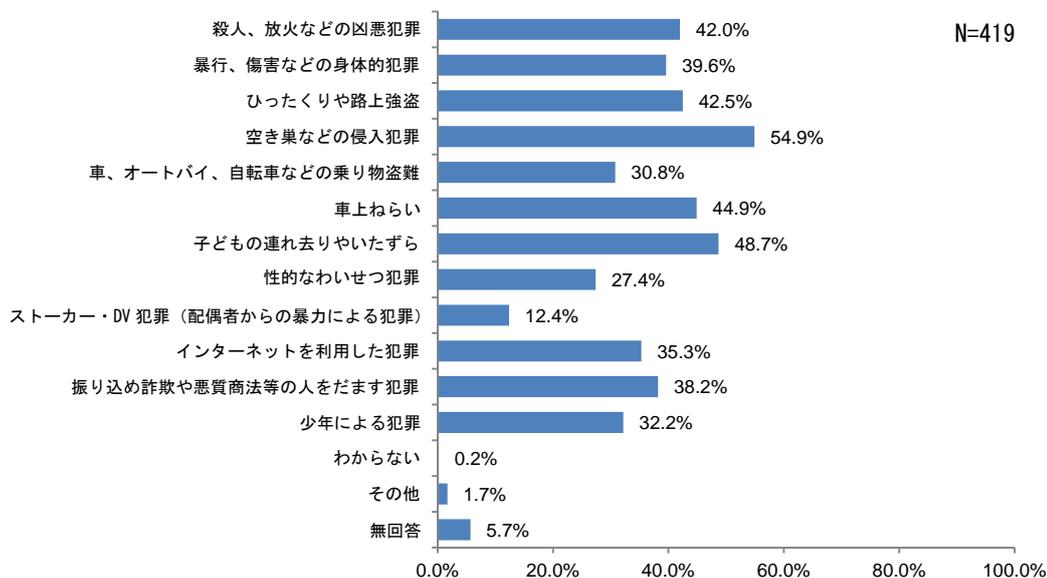
地域のつながりが弱く、近所の住民の顔をほとんど知らないから

わからない





問3 ※「問1」で選択肢「1」または「2」を選んだ方のみお答えください。
 あなたが不安を感じる犯罪について、次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「空き巣などの侵入犯罪」（54.9%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「子どもの連れ去りやいたずら」（48.7%）、「車上ねらい」（44.9%）の順となっている。

【圏域別】

「空き巣などの侵入犯罪」については、十勝圏（63.2%）が最も割合が高く、次いで道央圏（57.2%）となっている。「子どもの連れ去りやいたずら」については、道北圏（59.2%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室圏（55.0%）となっている。

【人口規模別】

「空き巣などの侵入犯罪」については、町村部（57.6%）が最も割合が高く、次いで札幌市（57.4%）となっている。「子どもの連れ去りやいたずら」については、人口10万人未満の都市（53.7%）が最も割合が高く、次いで札幌市（52.1%）となっている。

【性別】

「空き巣などの侵入犯罪」については、男性49.7%、女性57.8%となっており、「子どもの連れ去りやいたずら」については、男性41.9%、女性52.7%となっている。

【年代別】

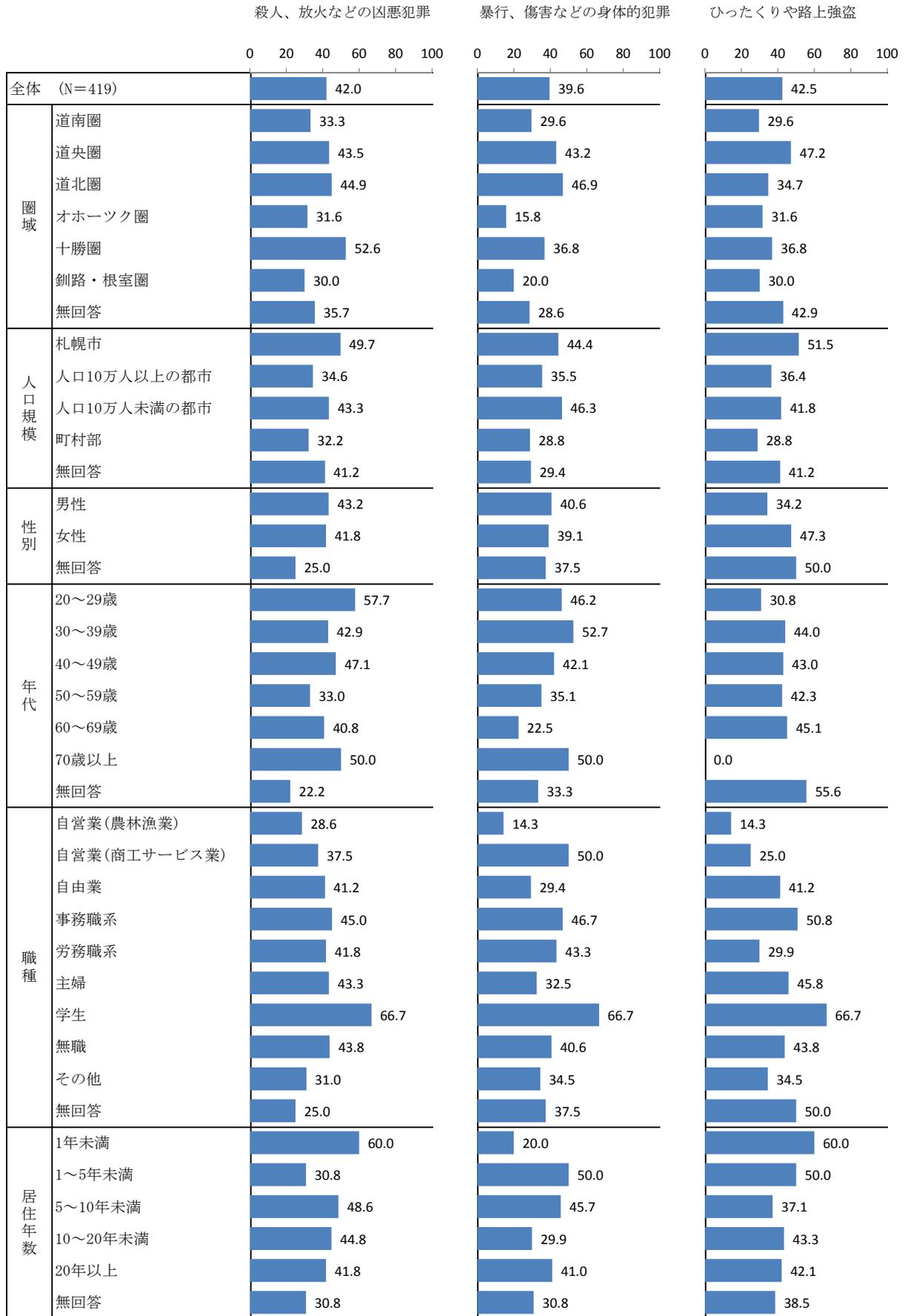
「空き巣などの侵入犯罪」については、70歳以上（75.0%）が最も割合が高く、次いで40～49歳（62.0%）となっている。「子どもの連れ去りやいたずら」については、30～39歳（69.2%）が最も割合が高く、次いで40～49歳（56.2%）となっている。

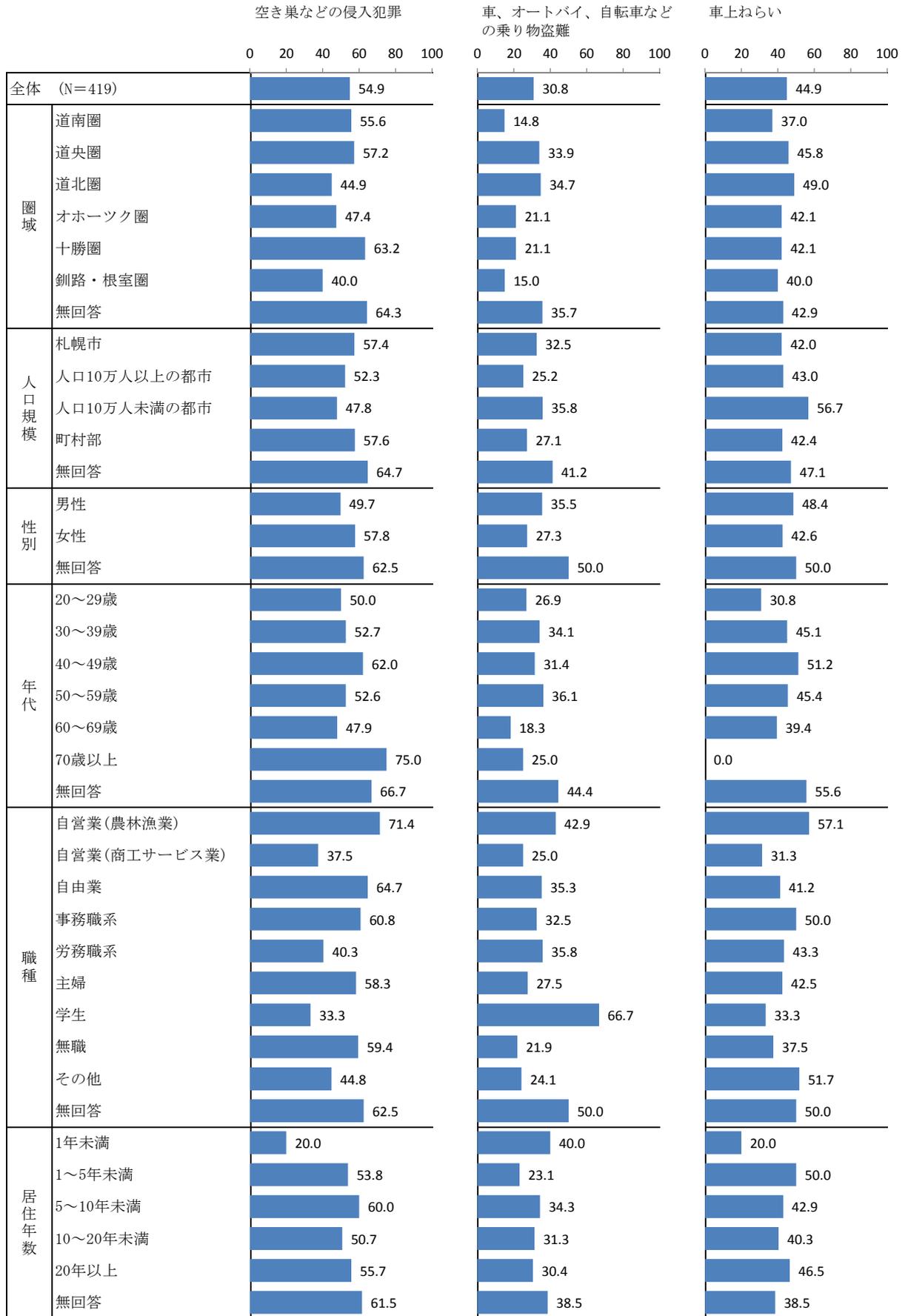
【職種別】

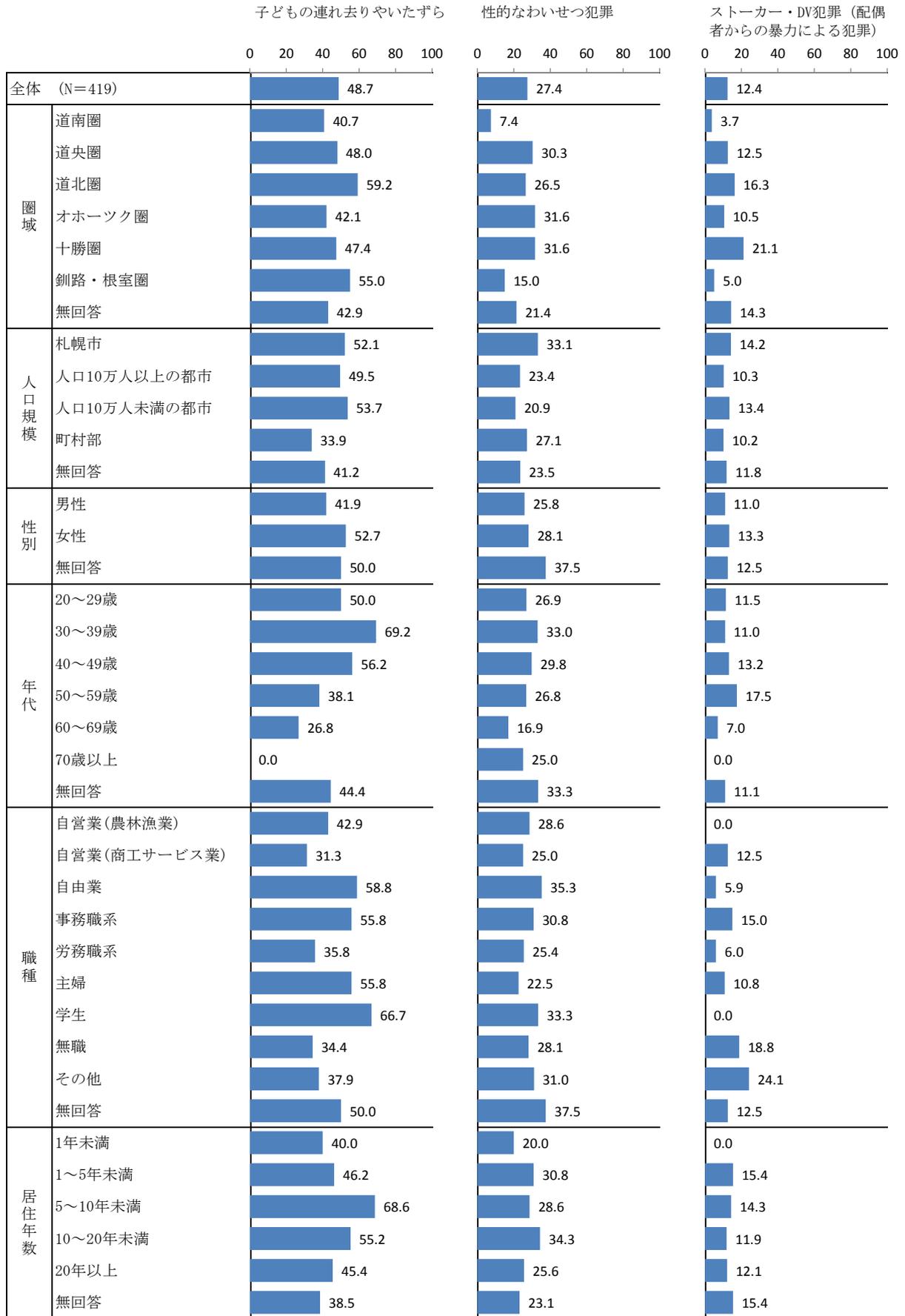
「空き巣などの侵入犯罪」については、自営業（農林漁業）（71.4%）が最も割合が高く、次いで自由業（64.7%）となっている。「子どもの連れ去りやいたずら」については、学生（66.7%）が最も割合が高く、次いで自由業（58.8%）となっている。

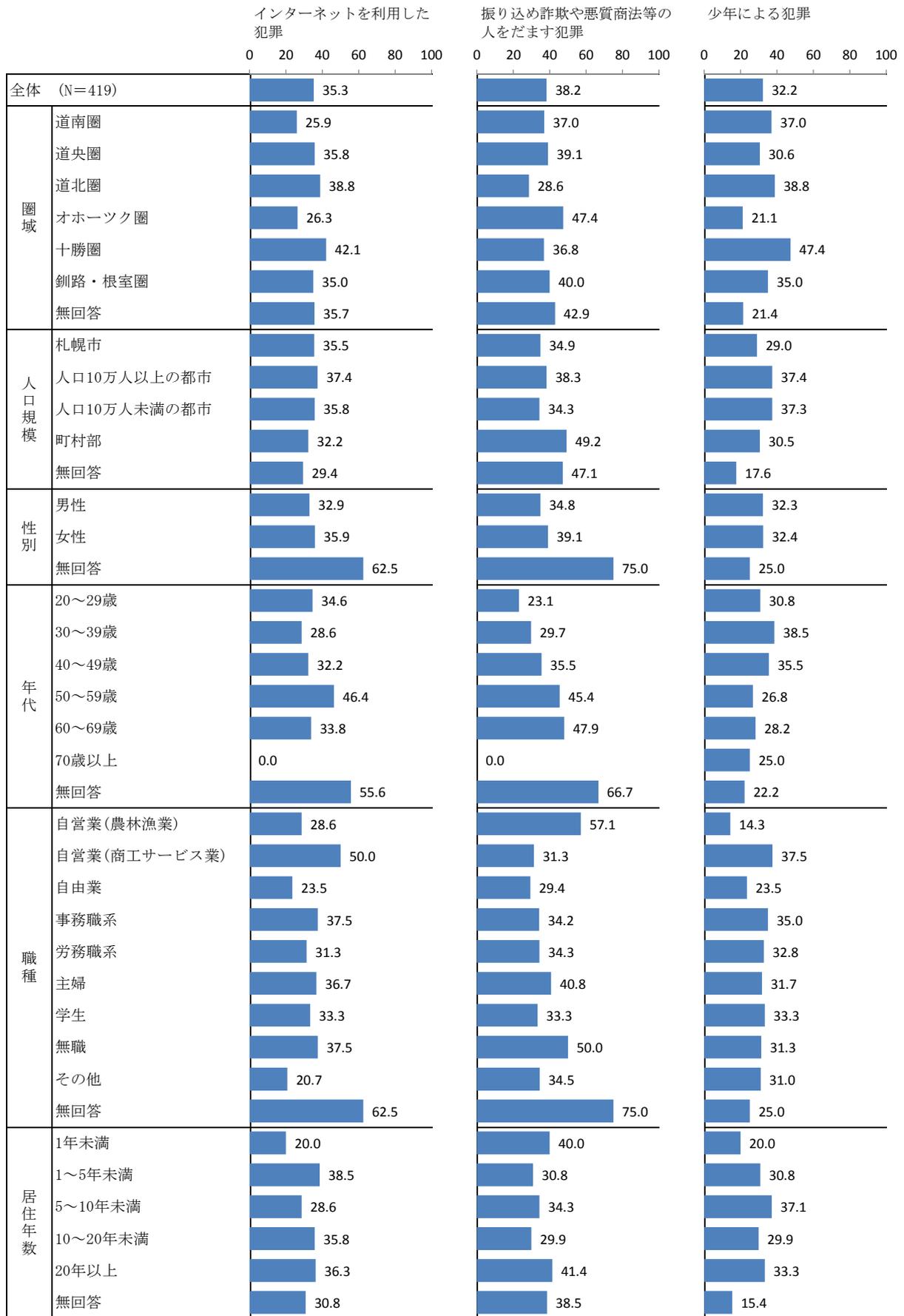
【居住年数別】

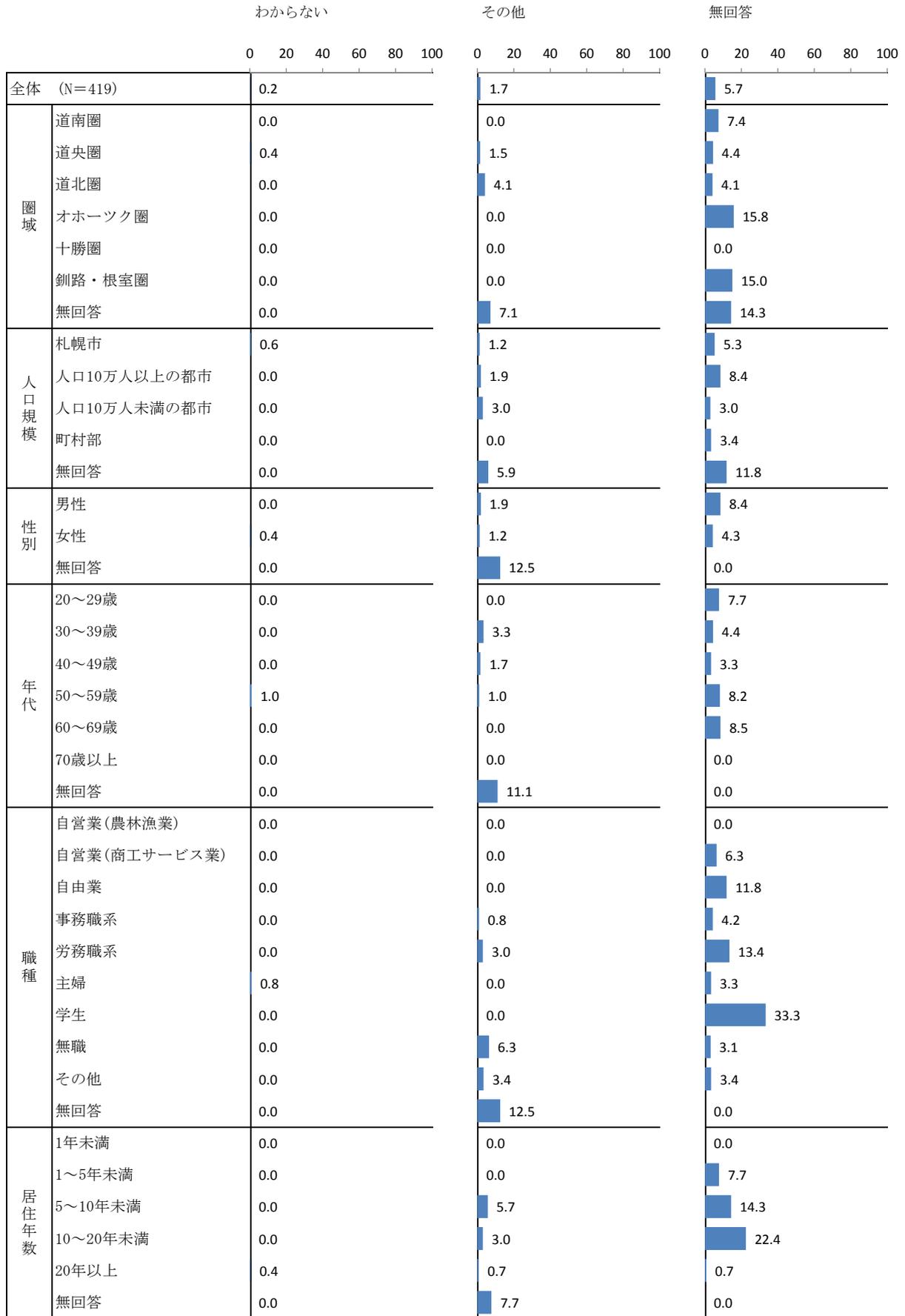
「空き巣などの侵入犯罪」については、5～10年未満（60.0%）が最も割合が高く、次いで20年以上（55.7%）となっている。「子どもの連れ去りやいたずら」については、5～10年未満（68.6%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（55.2%）となっている。



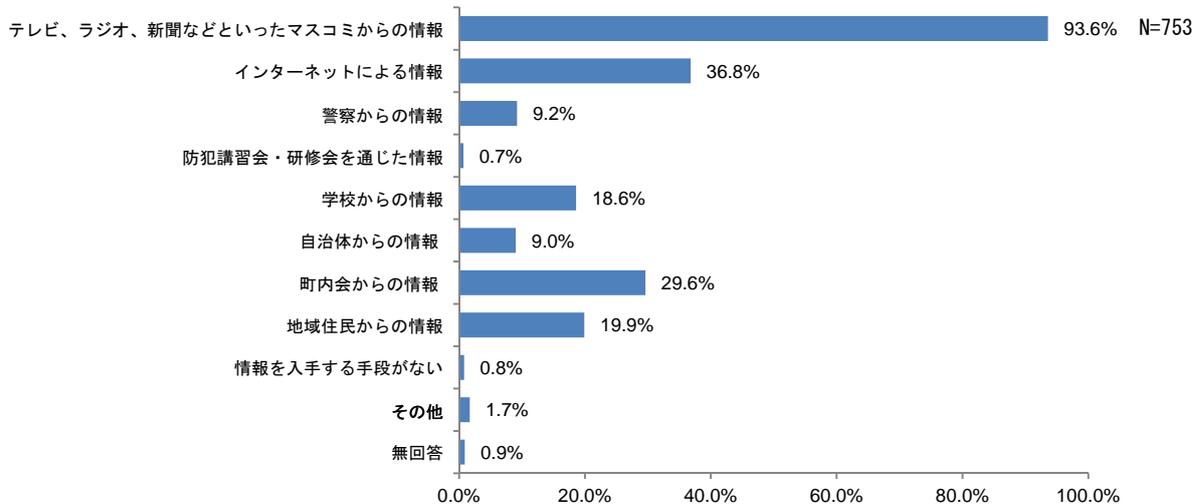








問4 あなたは、地域で起きている犯罪をどのような手段で知りますか。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「テレビ、ラジオ、新聞などといったマスコミからの情報」(93.6%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「インターネットによる情報」(36.8%)、「町内会からの情報」(29.6%)の順となっている。

【圏域別】

「テレビ、ラジオ、新聞などといったマスコミからの情報」については、十勝圏(97.7%)が最も割合が高く、次いで道北圏(97.5%)となっている。「インターネットによる情報」については、道北圏(50.6%)が最も割合が高く、次いで道央圏(36.0%)と釧路・根室圏(36.0%)となっている。

【人口規模別】

「テレビ、ラジオ、新聞などといったマスコミからの情報」については、札幌市(95.9%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(94.8%)となっている。「インターネットによる情報」については、人口10万人未満の都市(40.9%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(40.8%)となっている。

【性別】

「テレビ、ラジオ、新聞などといったマスコミからの情報」については、男性94.0%、女性94.1%となっており、「インターネットによる情報」については、男性39.7%、女性35.0%となっている。

【年代別】

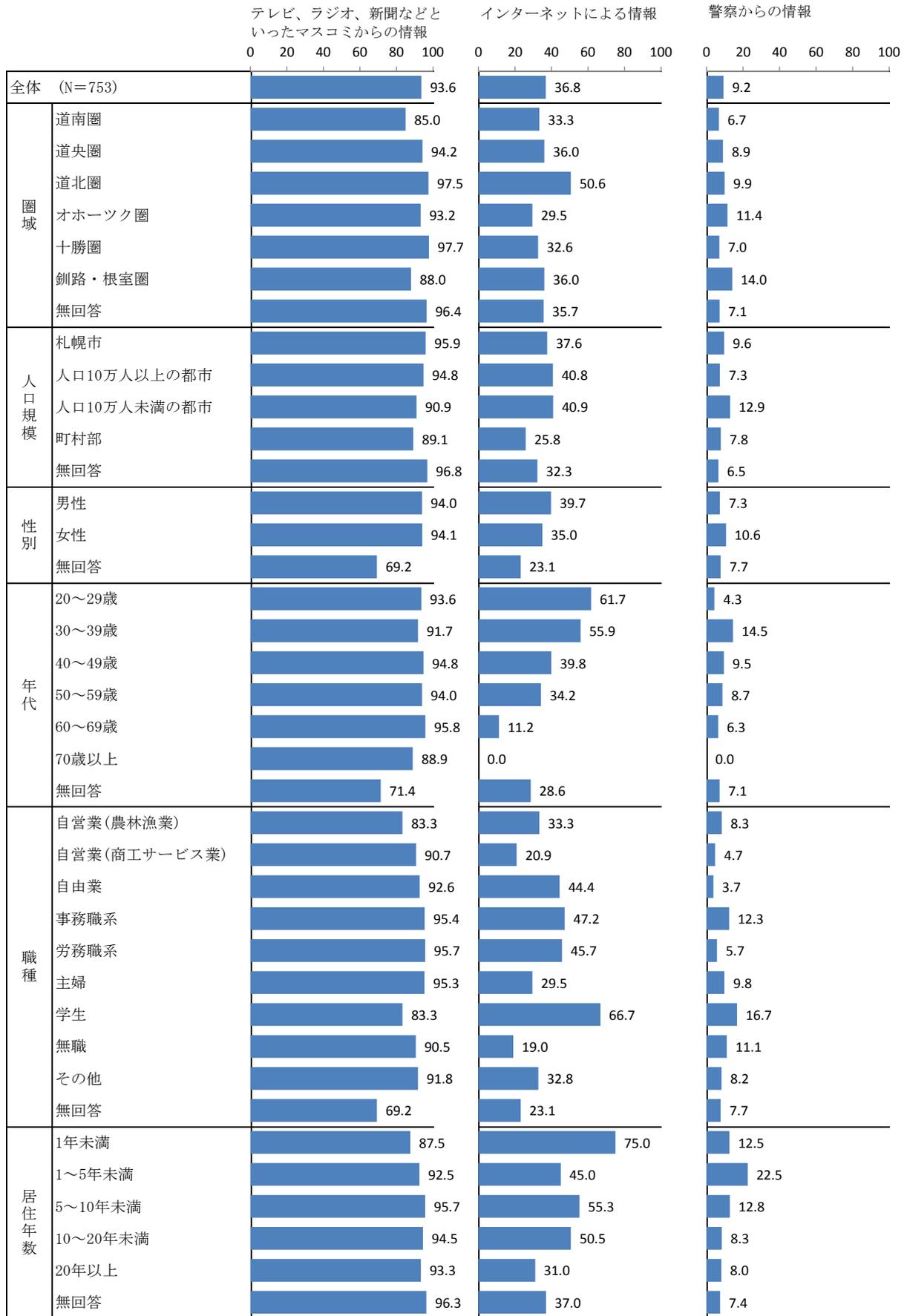
「テレビ、ラジオ、新聞などといったマスコミからの情報」については、60～69歳(95.8%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(94.8%)となっている。「インターネットによる情報」については、20～29歳(61.7%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(55.9%)となっている。

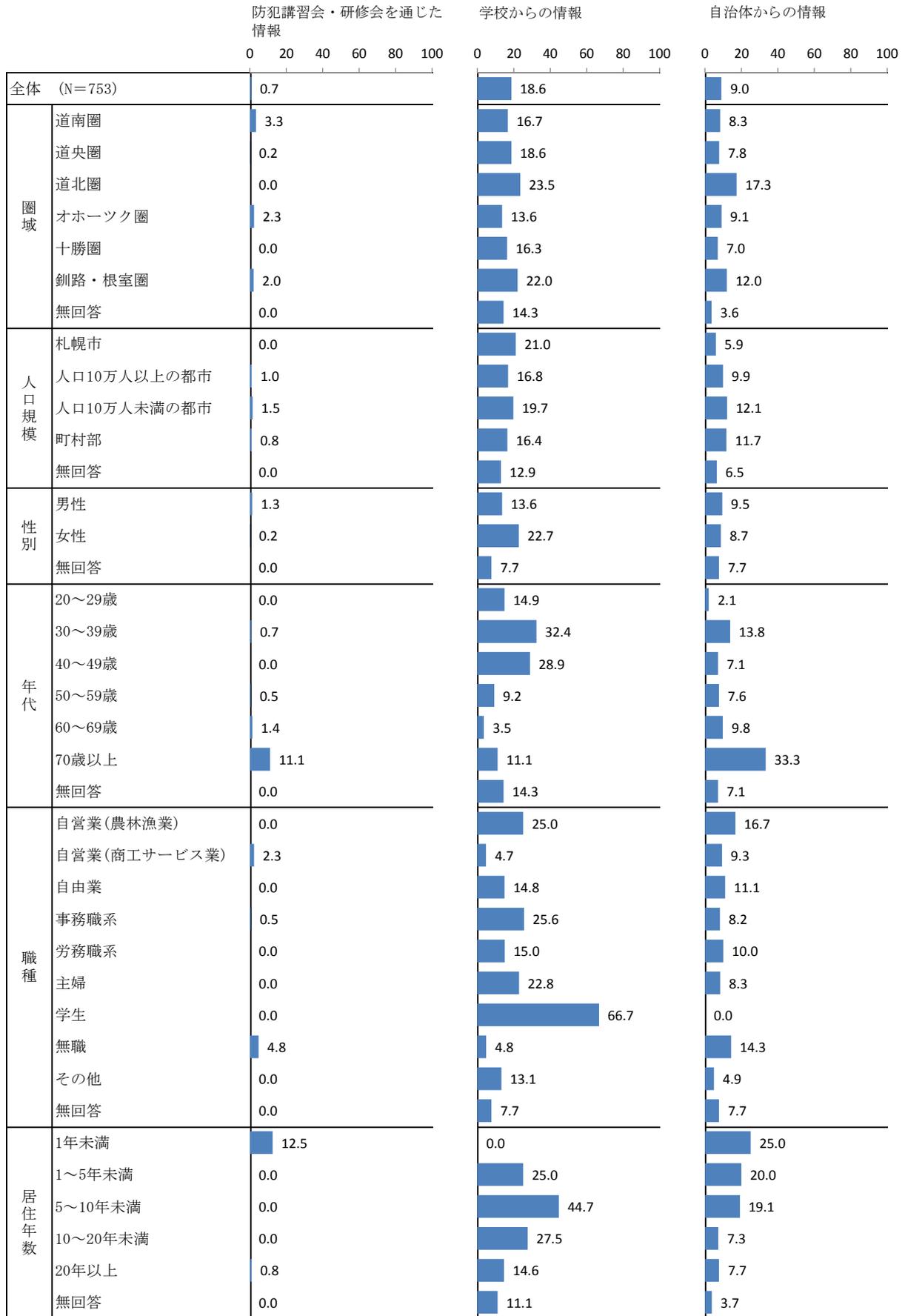
【職種別】

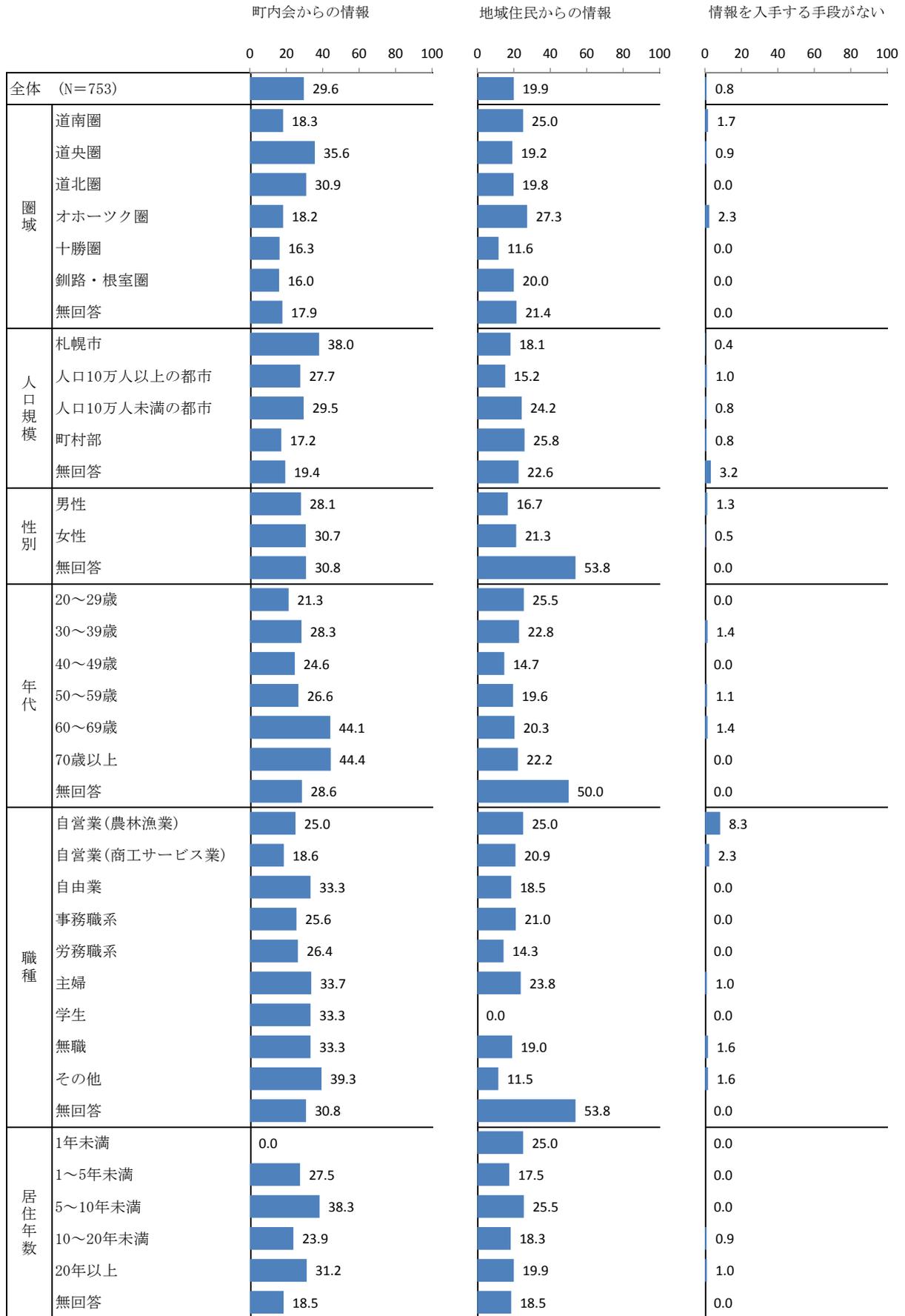
「テレビ、ラジオ、新聞などといったマスコミからの情報」については、労務職系(95.7%)が最も割合が高く、次いで事務職系(95.4%)となっている。「インターネットによる情報」については、学生(66.7%)が最も割合が高く、次いで事務職系(47.2%)となっている。

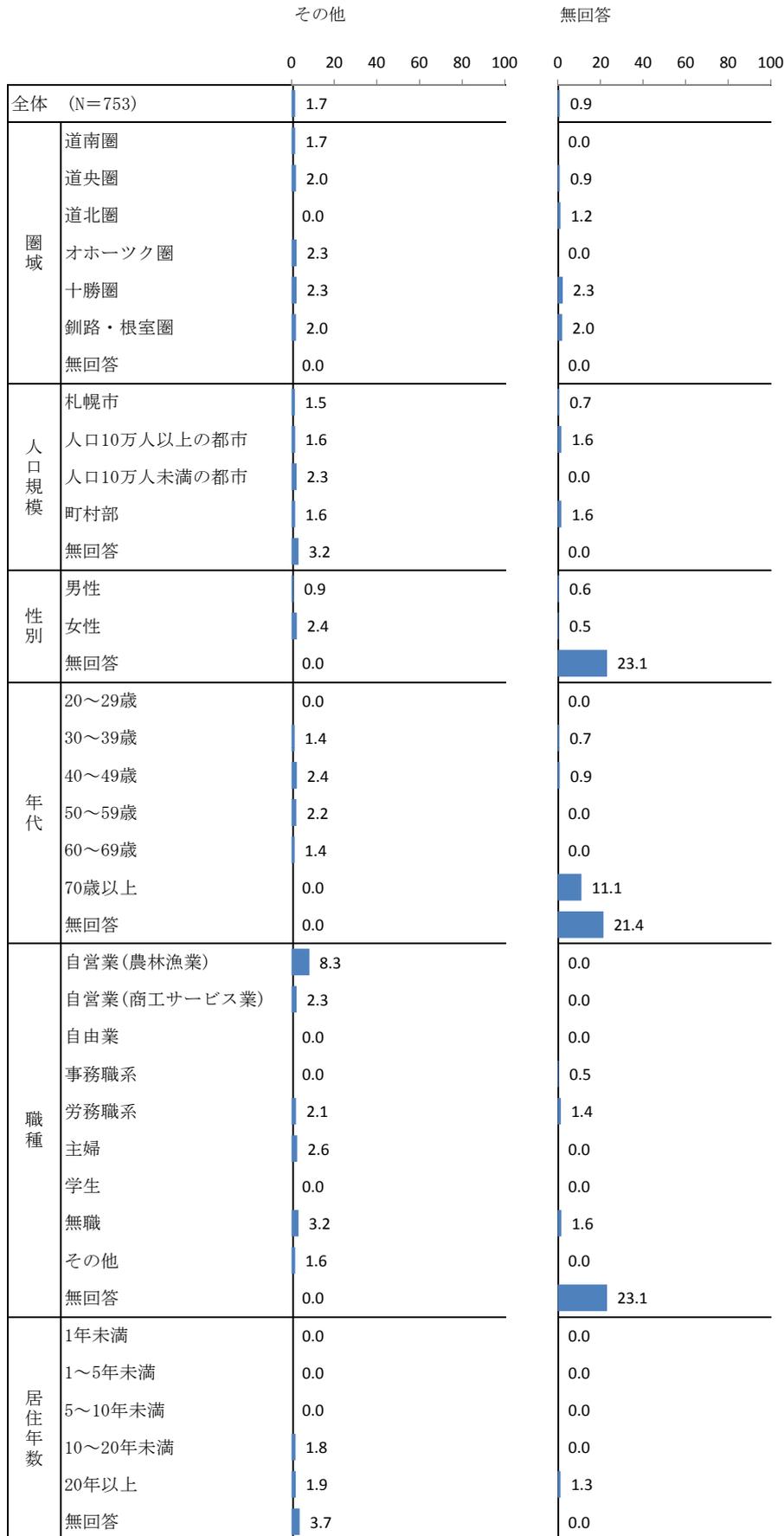
【居住年数別】

「テレビ、ラジオ、新聞などといったマスコミからの情報」については、5～10年未満(95.7%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(94.5%)となっている。「インターネットによる情報」については、1年未満(75.0%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(55.3%)となっている。

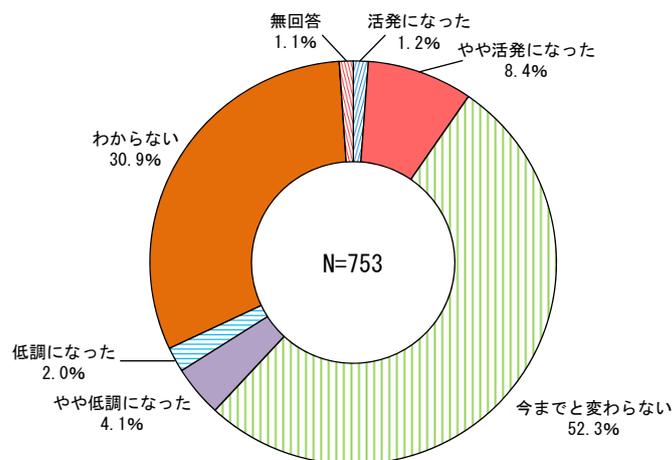








問5 あなたの居住地で行われているここ数年の防犯活動の状況について、どのように感じていますか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「今までと変わらない」(52.3%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「わからない」(30.9%)、「やや活発になった」(8.4%)の順となっている。

【圏域別】

「今までと変わらない」については、道南圏(63.3%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室圏(58.0%)となっている。「わからない」については、道央圏(34.0%)が最も割合が高く、次いで道北圏(29.6%)となっている。

【人口規模別】

「今までと変わらない」については、町村部(58.6%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市(53.9%)となっている。「わからない」については、人口10万人未満の都市(37.1%)が最も割合が高く、次いで札幌市(33.2%)となっている。

【性別】

「今までと変わらない」については、男性54.6%、女性51.3%となっており、「わからない」については、男性26.5%、女性34.8%となっている。

【年代別】

「今までと変わらない」については、60～69歳(55.9%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(55.0%)となっている。「わからない」については、30～39歳(38.6%)が最も割合が高く、次いで20～29歳(34.0%)となっている。

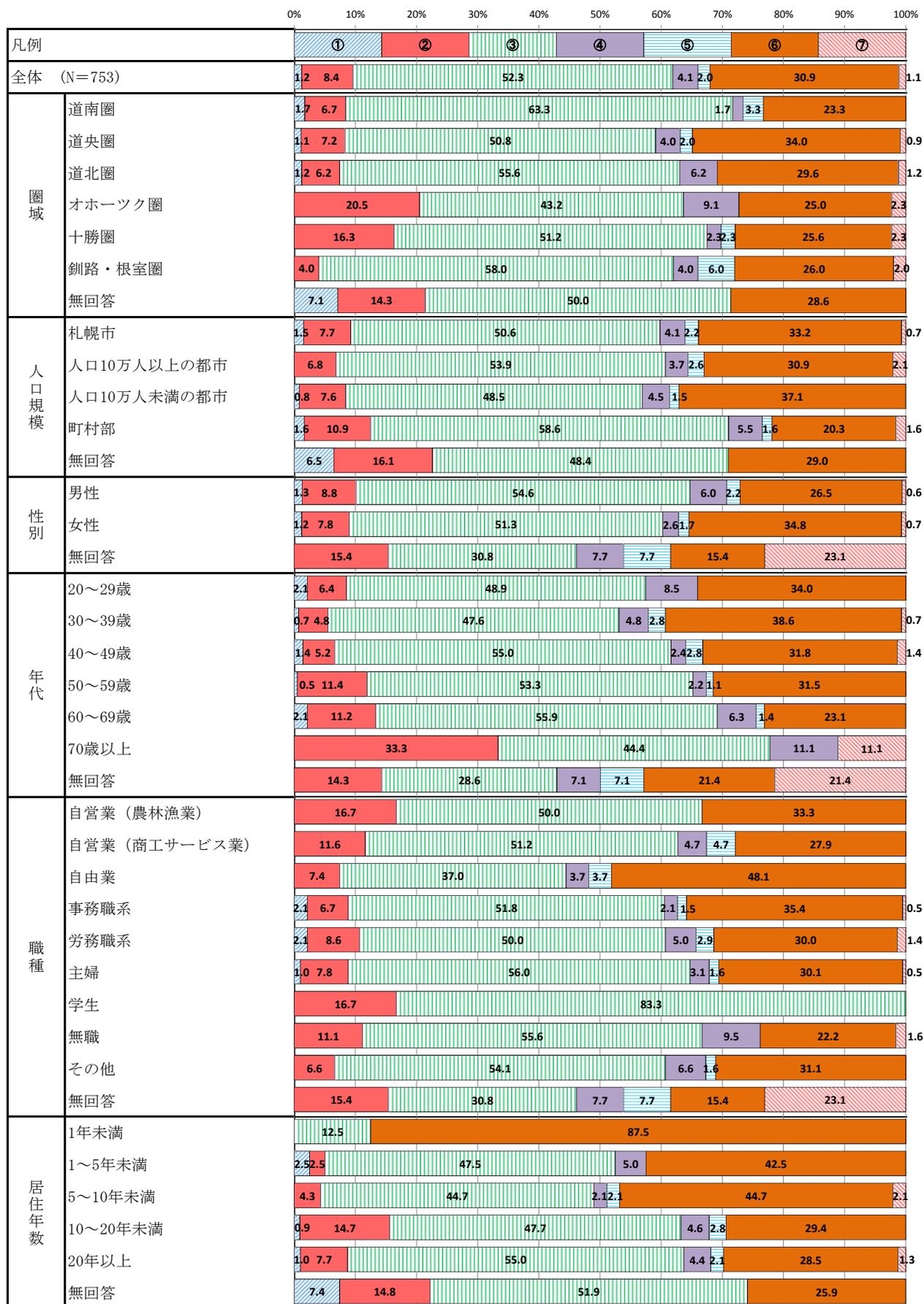
【職種別】

「今までと変わらない」については、学生(83.3%)が最も割合が高く、次いで主婦(56.0%)となっている。「わからない」については、自由業(48.1%)が最も割合が高く、次いで事務職系(35.4%)となっている。

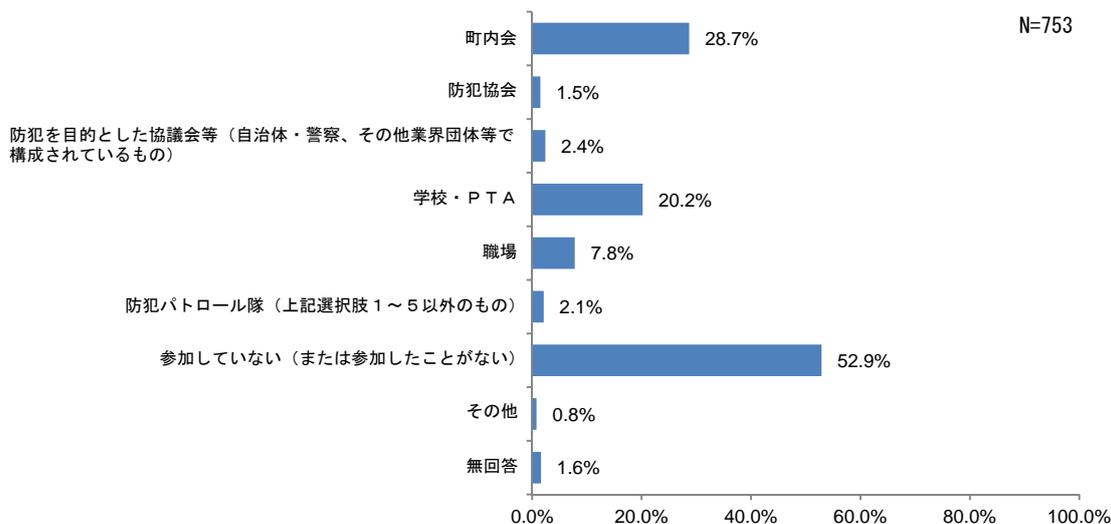
【居住年数別】

「今までと変わらない」については、20年以上(55.0%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(47.7%)となっている。「わからない」については、1年未満(87.5%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(44.7%)となっている。

①活発になった ②やや活発になった ③今までと変わらない ④やや低調になった
 ⑤低調になった ⑥わからない ⑦無回答



問6 あなたは、地域を犯罪被害から守るために、どのような団体での活動に参加していますか(過去に参加していたでも可)。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「参加していない (または参加したことがない)」(52.9%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「町内会」(28.7%)、「学校・PTA」(20.2%)の順となっている。

【圏域別】

「参加していない (または参加したことがない)」については、道南圏 (63.3%)が最も割合が高く、次いで道央圏 (54.8%)となっている。「町内会」については、オホーツク圏 (43.2%)が最も割合が高く、次いで十勝圏 (37.2%)となっている。

【人口規模別】

「参加していない (または参加したことがない)」については、人口10万人未満の都市 (57.6%)が最も割合が高く、次いで札幌市 (53.9%)と人口10万人以上の都市 (53.9%)となっている。「町内会」については、町村部 (33.6%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市 (30.4%)となっている。

【性別】

「参加していない (または参加したことがない)」については、男性54.9%、女性51.8%となっており、「町内会」については、男性31.2%、女性26.7%となっている。

【年代別】

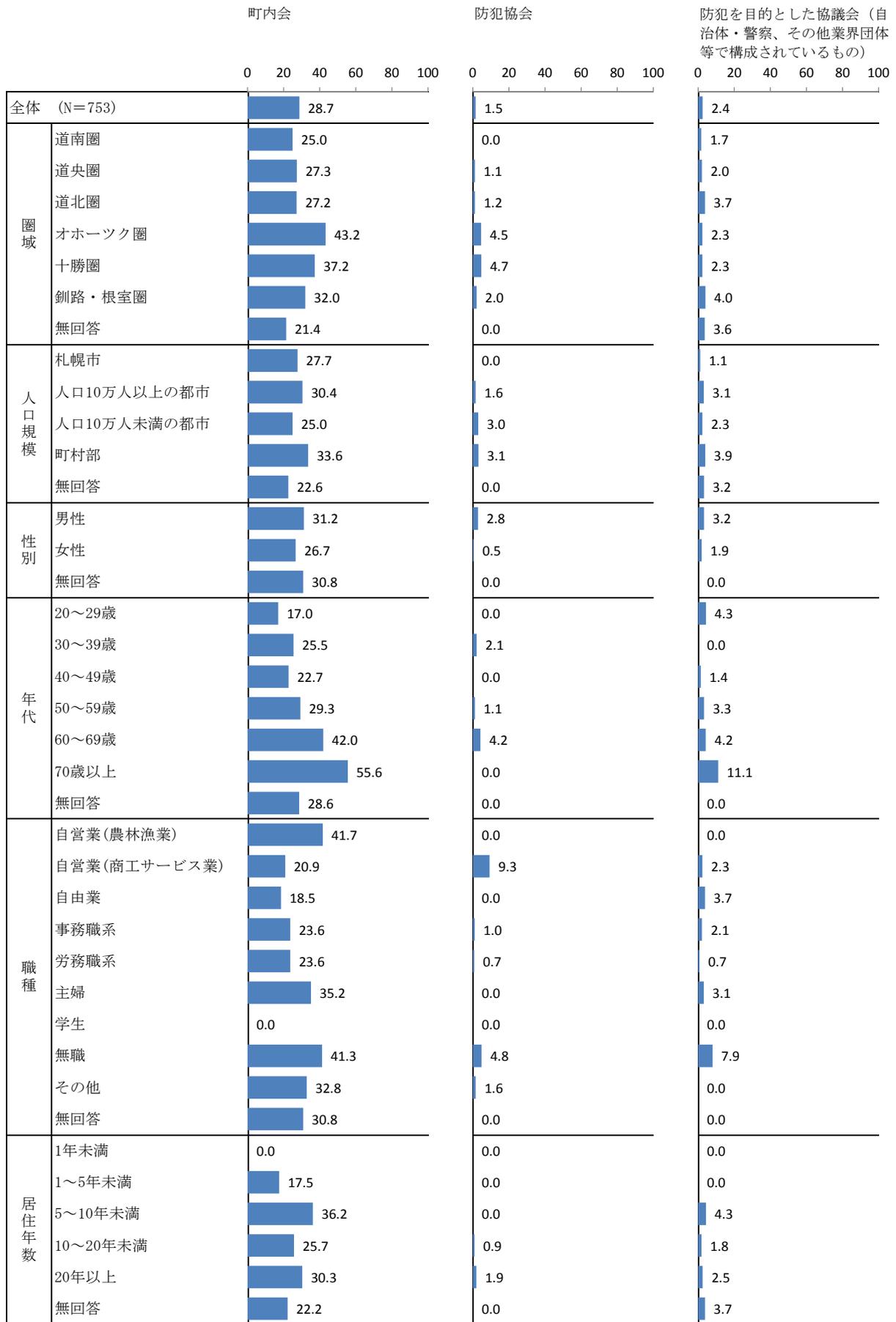
「参加していない (または参加したことがない)」については、20～29歳 (68.1%)が最も割合が高く、次いで30～39歳 (60.0%)となっている。「町内会」については、70歳以上 (55.6%)が最も割合が高く、次いで60～69歳 (42.0%)となっている。

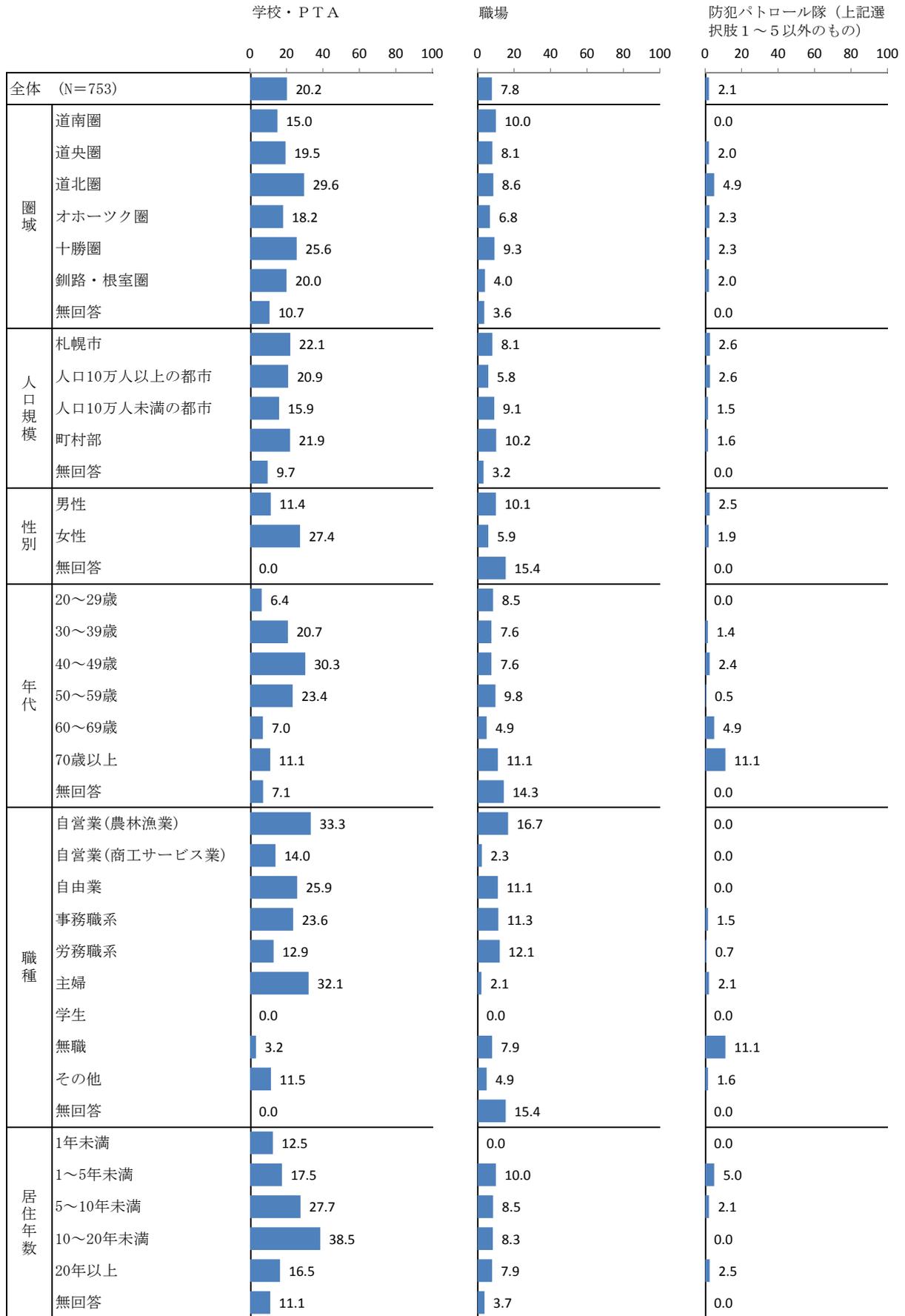
【職種別】

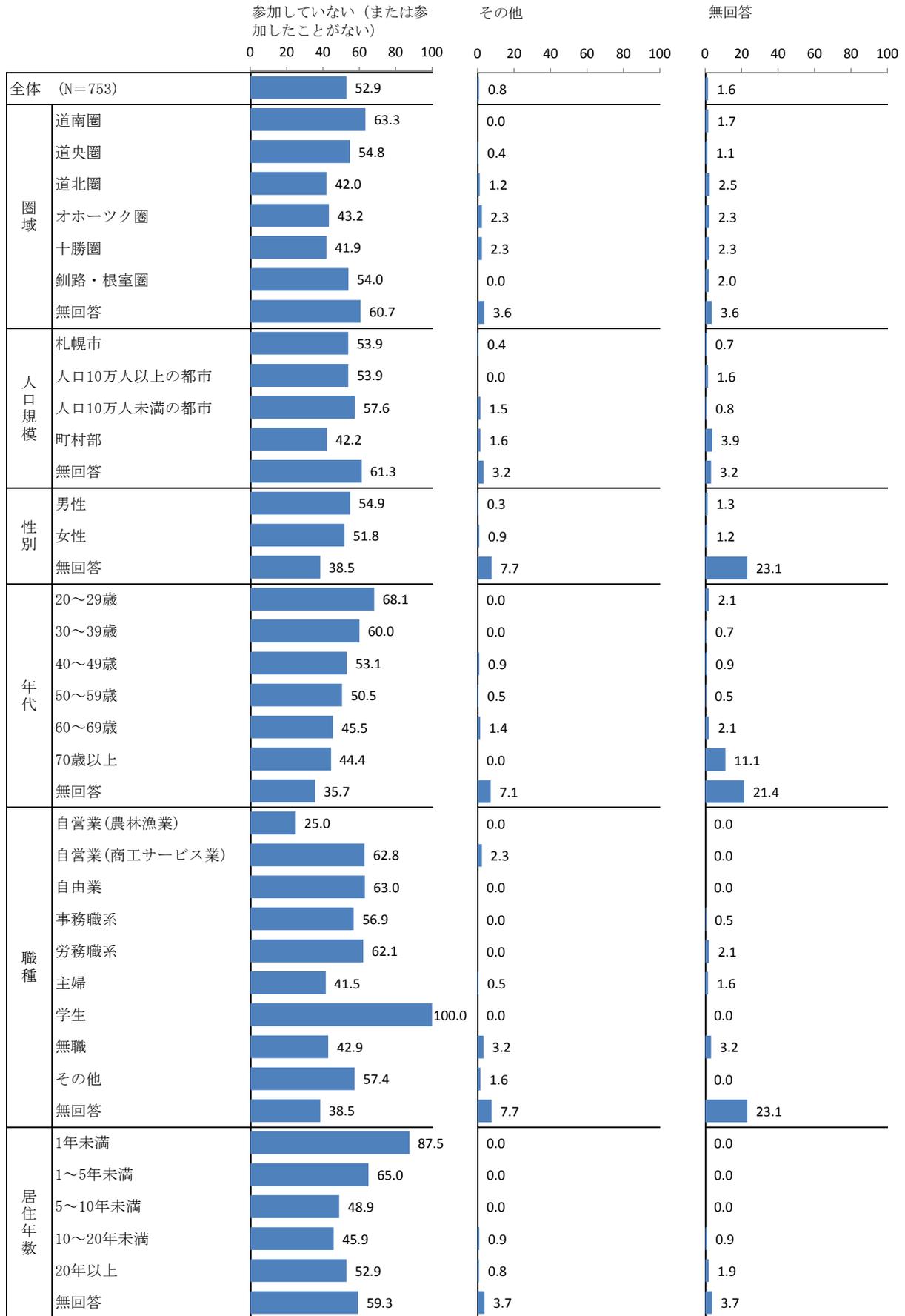
「参加していない (または参加したことがない)」については、学生 (100.0%)が最も割合が高く、次いで自由業 (63.0%)となっている。「町内会」については、自営業 (農林漁業) (41.7%)が最も割合が高く、次いで無職 (41.3%)となっている。

【居住年数別】

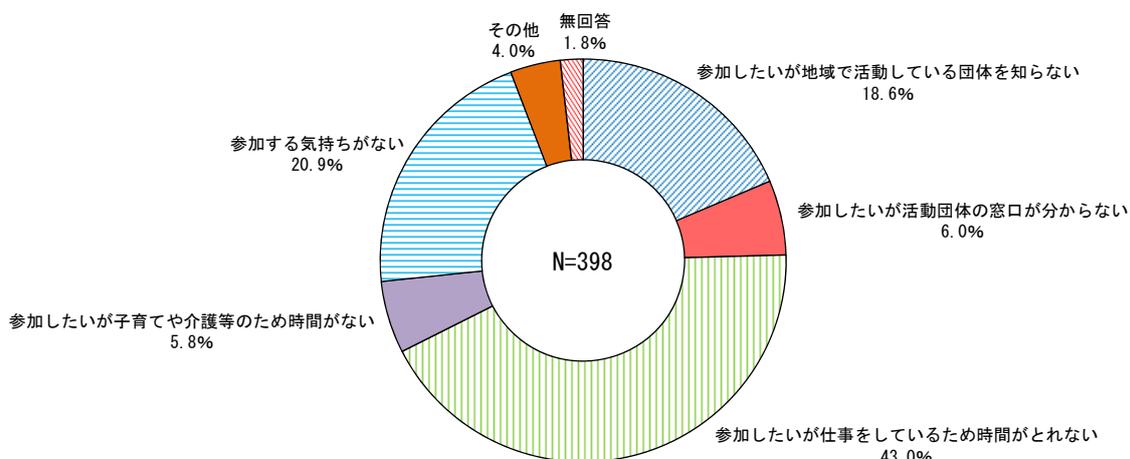
「参加していない (または参加したことがない)」については、1年未満 (87.5%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満 (65.0%)となっている。「町内会」については、5～10年未満 (36.2%)が最も割合が高く、次いで20年以上 (30.3%)となっている。







問7 ※「問6」で選択肢「7」を選んだ方のみお答えください。
 あなたが防犯活動団体に参加していない（または参加したことがない）理由について、次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」（43.0%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「参加する気持ちがない」（20.9%）、「参加したいが地域で活動している団体を知らない」（18.6%）の順となっている。

【圏域別】

「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、オホーツク圏（68.4%）が最も割合が高く、次いで道南圏（44.7%）となっている。「参加する気持ちがない」については、道央圏（24.1%）が最も割合が高く、次いで十勝圏（22.2%）となっている。

【人口規模別】

「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、町村部（59.3%）が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の都市（41.7%）となっている。「参加する気持ちがない」については、札幌市（27.4%）が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の都市（19.7%）となっている。

【性別】

「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、男性52.3%、女性36.1%となっており、「参加する気持ちがない」については、男性20.7%、女性20.5%となっている。

【年代別】

「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、50～59歳（53.8%）が最も割合が高く、次いで40～49歳（46.4%）となっている。「参加する気持ちがない」については、70歳以上（50.0%）が最も割合が高く、次いで20～29歳（34.4%）となっている。

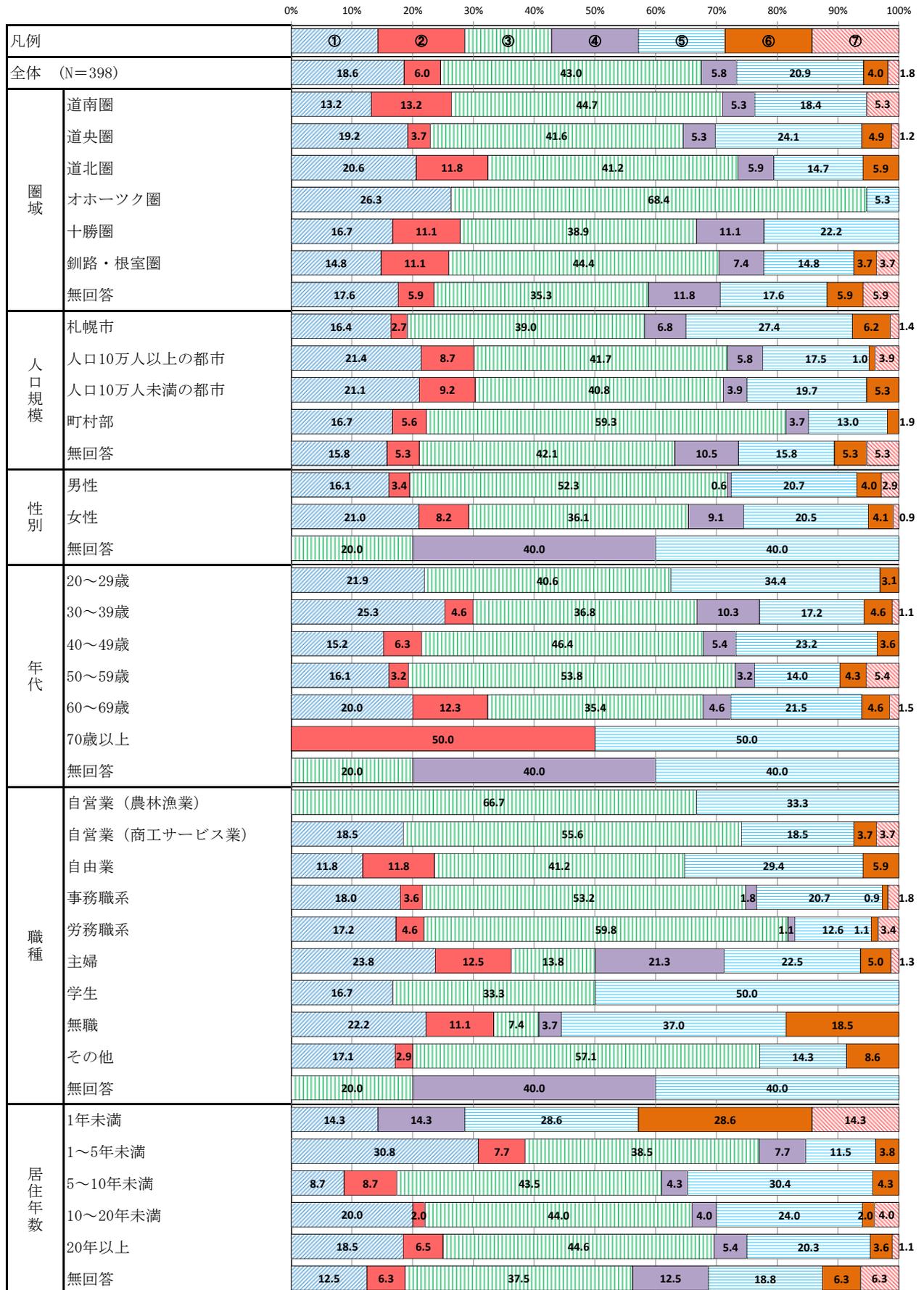
【職種別】

「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、自営業（農林漁業）（66.7%）が最も割合が高く、次いで労務職系（59.8%）となっている。「参加する気持ちがない」については、学生（50.0%）が最も割合が高く、次いで無職（37.0%）となっている。

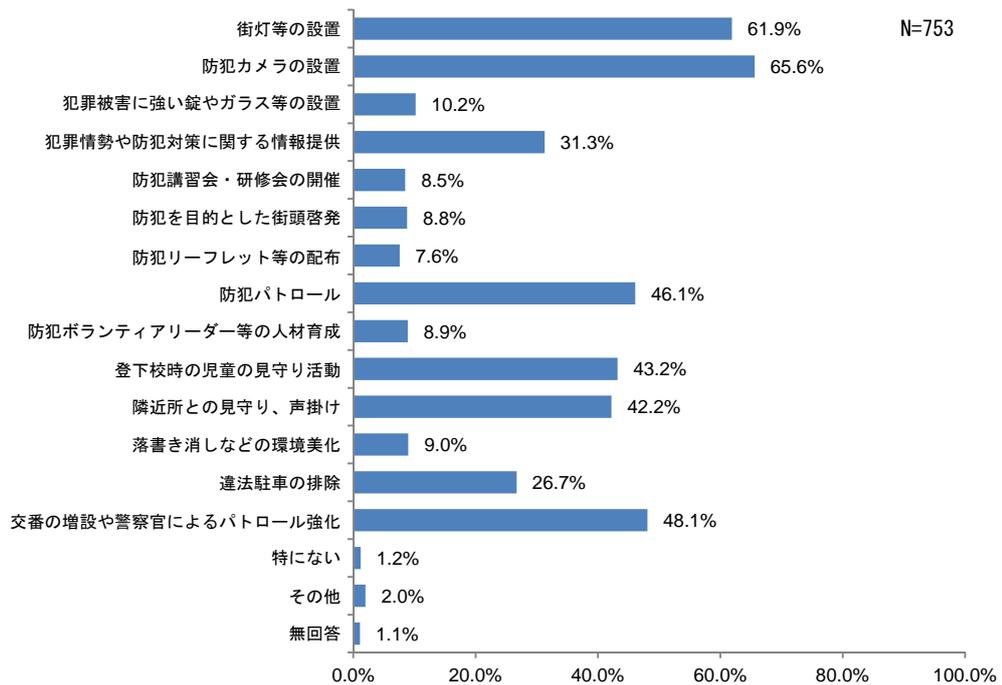
【居住年数別】

「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、20年以上（44.6%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（44.0%）となっている。「参加する気持ちがない」については、5～10年未満（30.4%）が最も割合が高く、次いで1年未満（28.6%）となっている。

- ①参加したいが地域で活動している団体を知らない
 ②参加したいが活動団体の窓口が分からない
 ③参加したいが仕事をしているため時間がとれない
 ④参加したいが子育てや介護等のため時間が無い
 ⑤参加する気持ちがない
 ⑥その他
 ⑦無回答



問8 あなたは、地域を犯罪被害から守るために、どのような活動や対策が必要だと思いますか。次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「防犯カメラの設置」(65.6%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「街灯等の設置」(61.9%)、「交番の増設や警察官によるパトロール強化」(48.1%)の順となっている。

【圏域別】

「防犯カメラの設置」については、道央圏(68.9%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室圏(64.0%)となっている。「街灯等の設置」については、オホーツク圏(65.9%)が最も割合が高く、次いで道央圏(63.5%)となっている。

【人口規模別】

「防犯カメラの設置」については、札幌市(69.0%)が最も割合が高く、次いで町村部(64.1%)となっている。「街灯等の設置」については、人口10万人以上の都市(66.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の都市(62.9%)となっている。

【性別】

「防犯カメラの設置」については、男性68.8%、女性63.4%となっており、「街灯等の設置」については、男性59.0%、女性64.5%となっている。

【年代別】

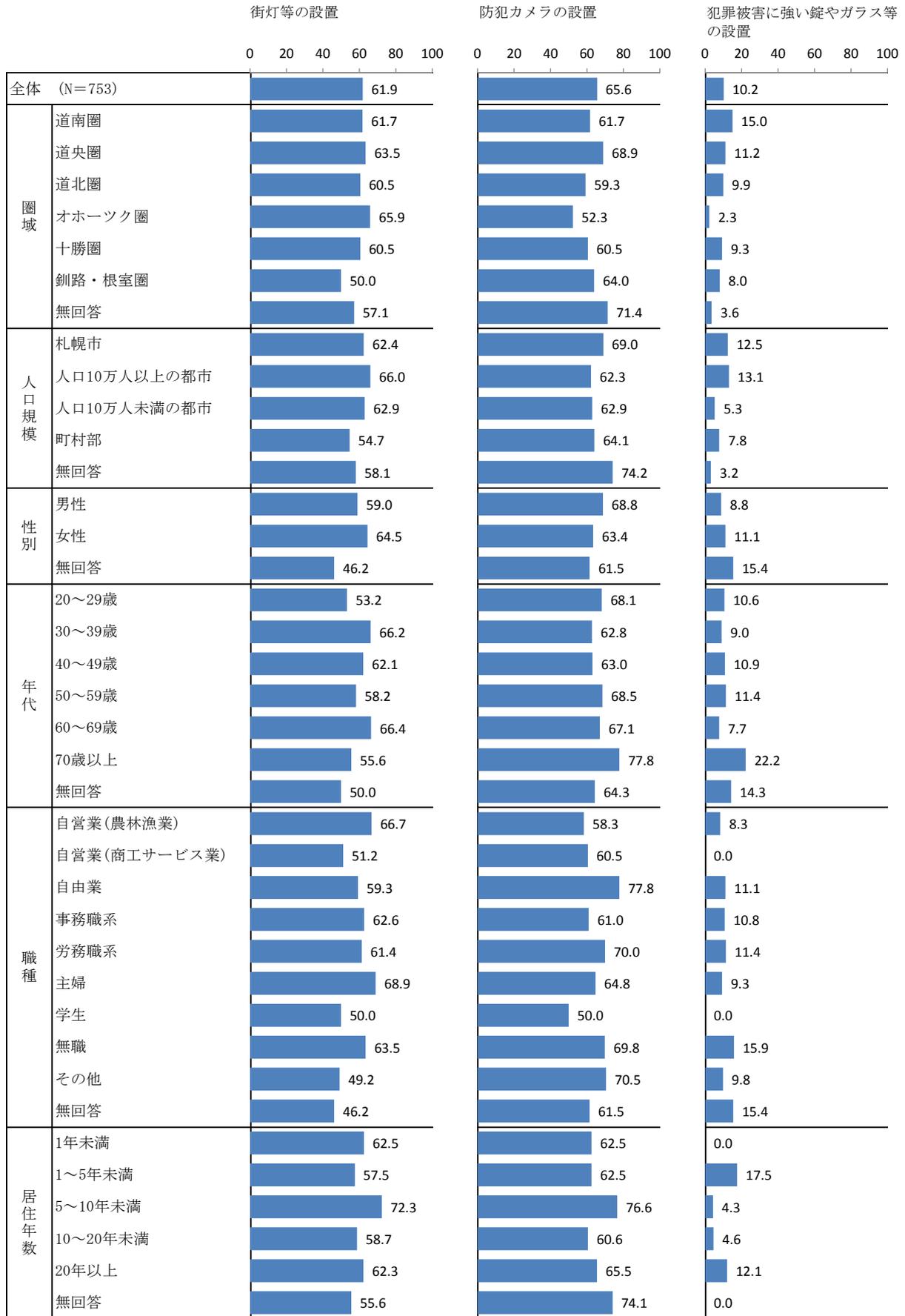
「防犯カメラの設置」については、70歳以上(77.8%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(68.5%)となっている。「街灯等の設置」については、60～69歳(66.4%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(66.2%)となっている。

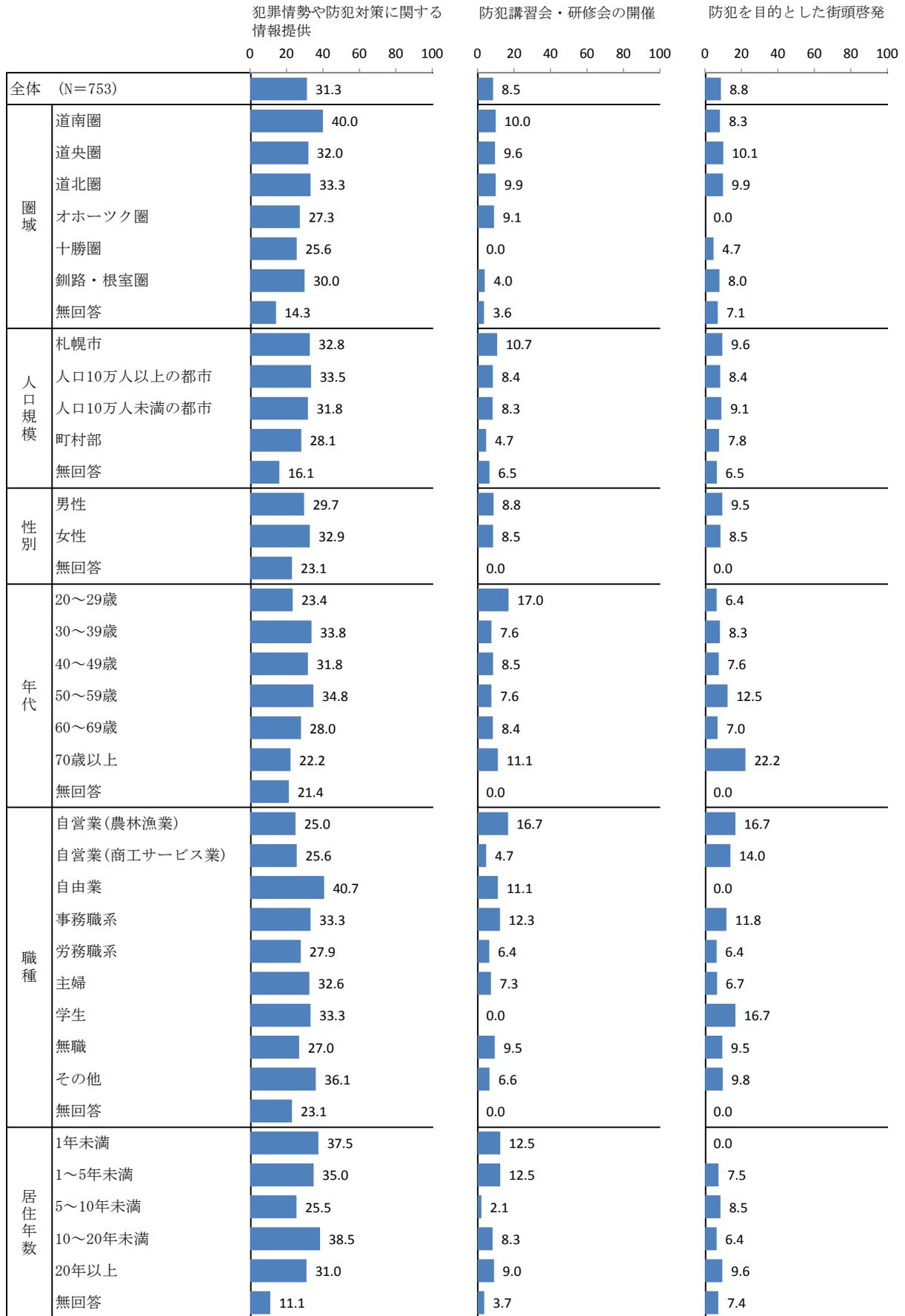
【職種別】

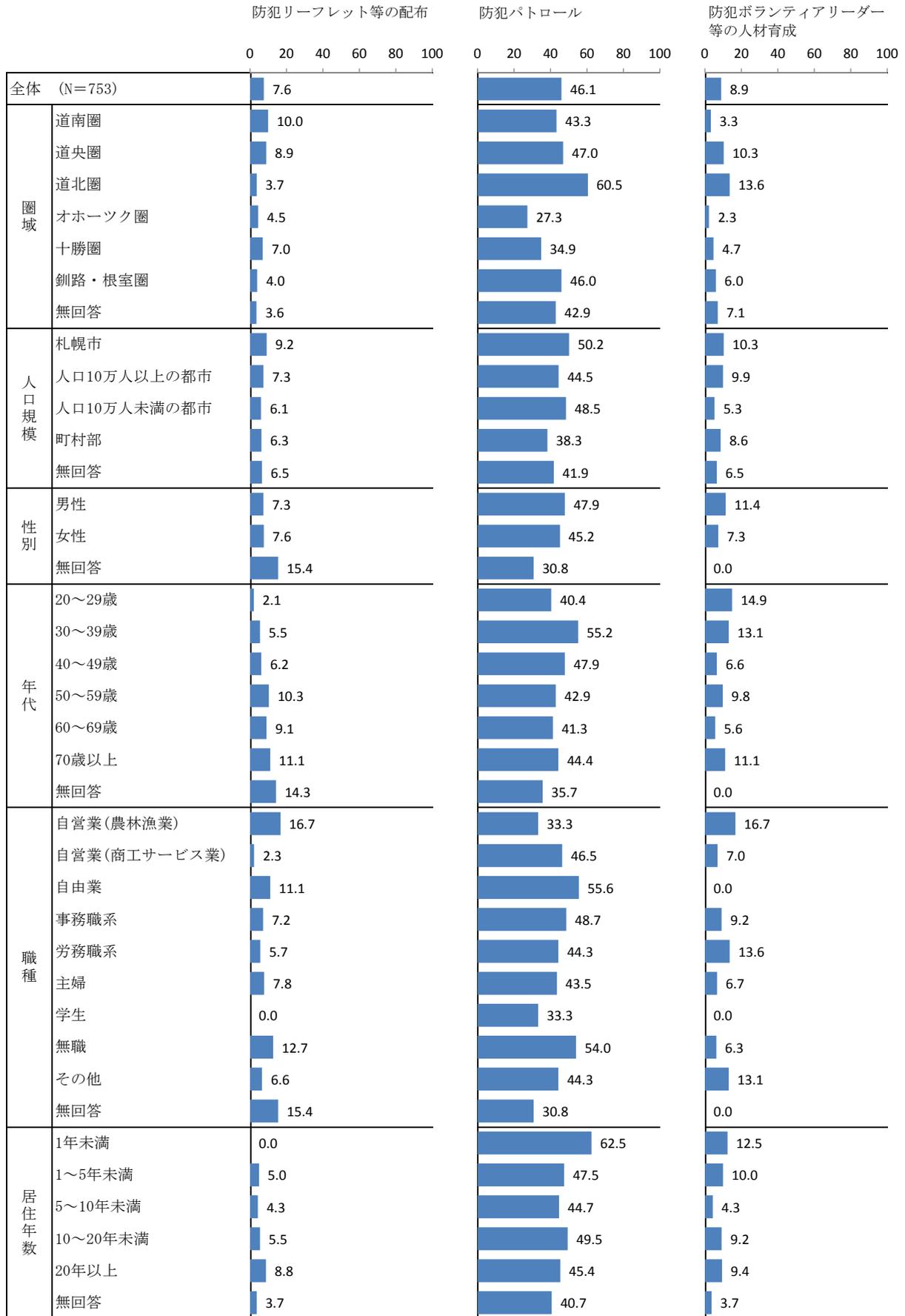
「防犯カメラの設置」については、自由業(77.8%)が最も割合が高く、次いでその他(70.5%)となっている。「街灯等の設置」については、主婦(68.9%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(66.7%)となっている。

【居住年数別】

「防犯カメラの設置」については、5～10年未満(76.6%)が最も割合が高く、次いで20年以上(65.5%)となっている。「街灯等の設置」については、5～10年未満(72.3%)が最も割合が高く、次いで1年未満(62.5%)となっている。



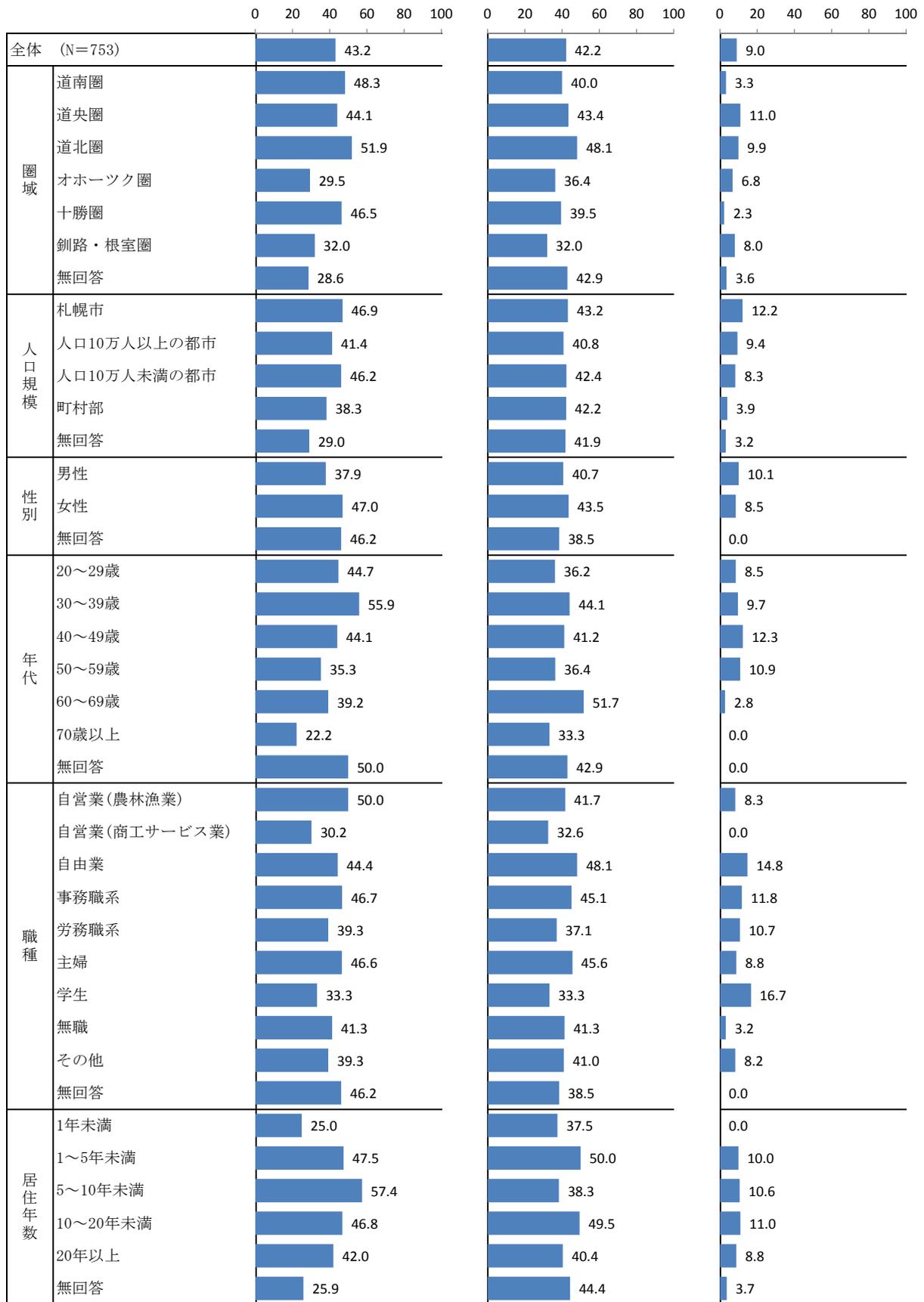


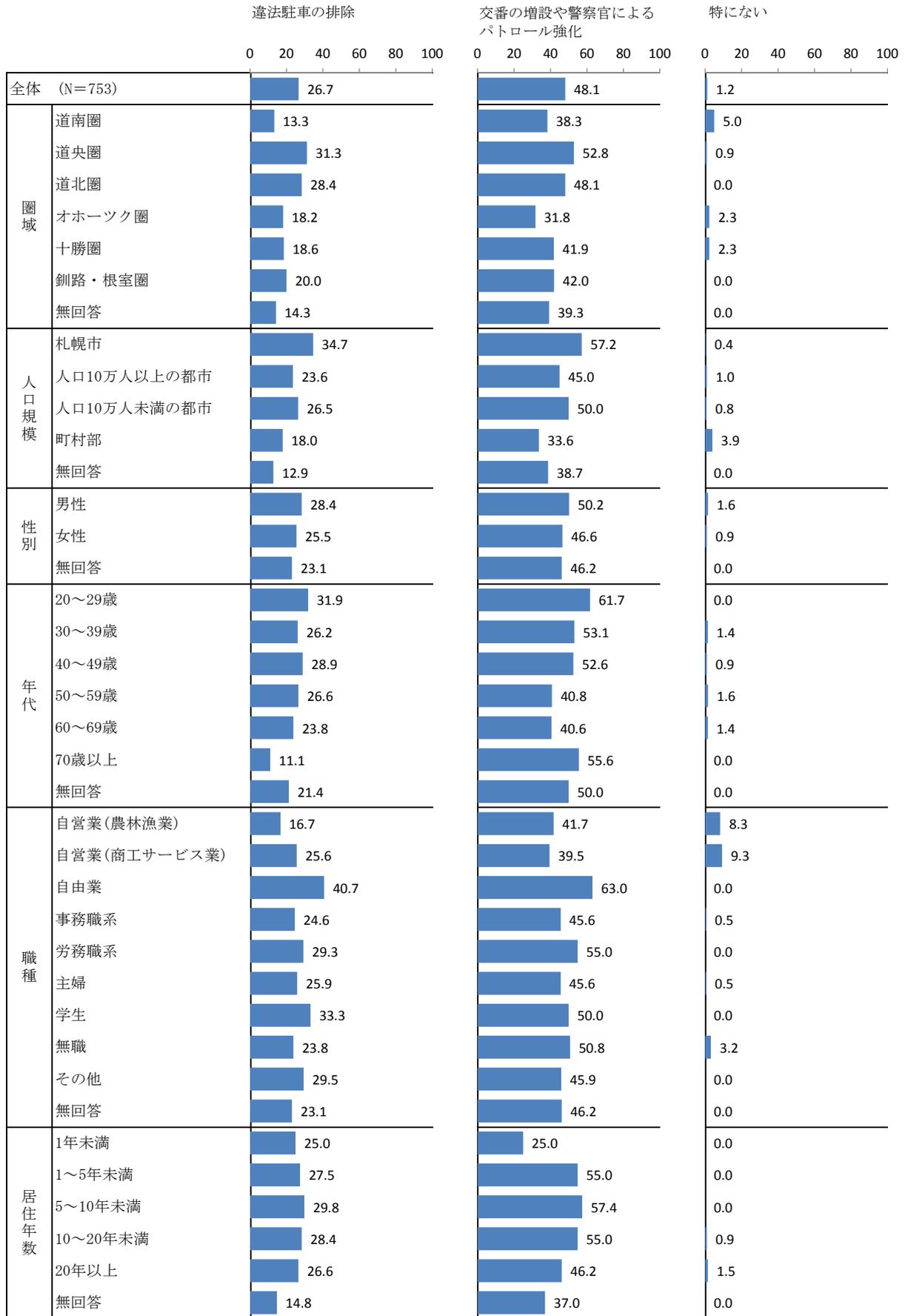


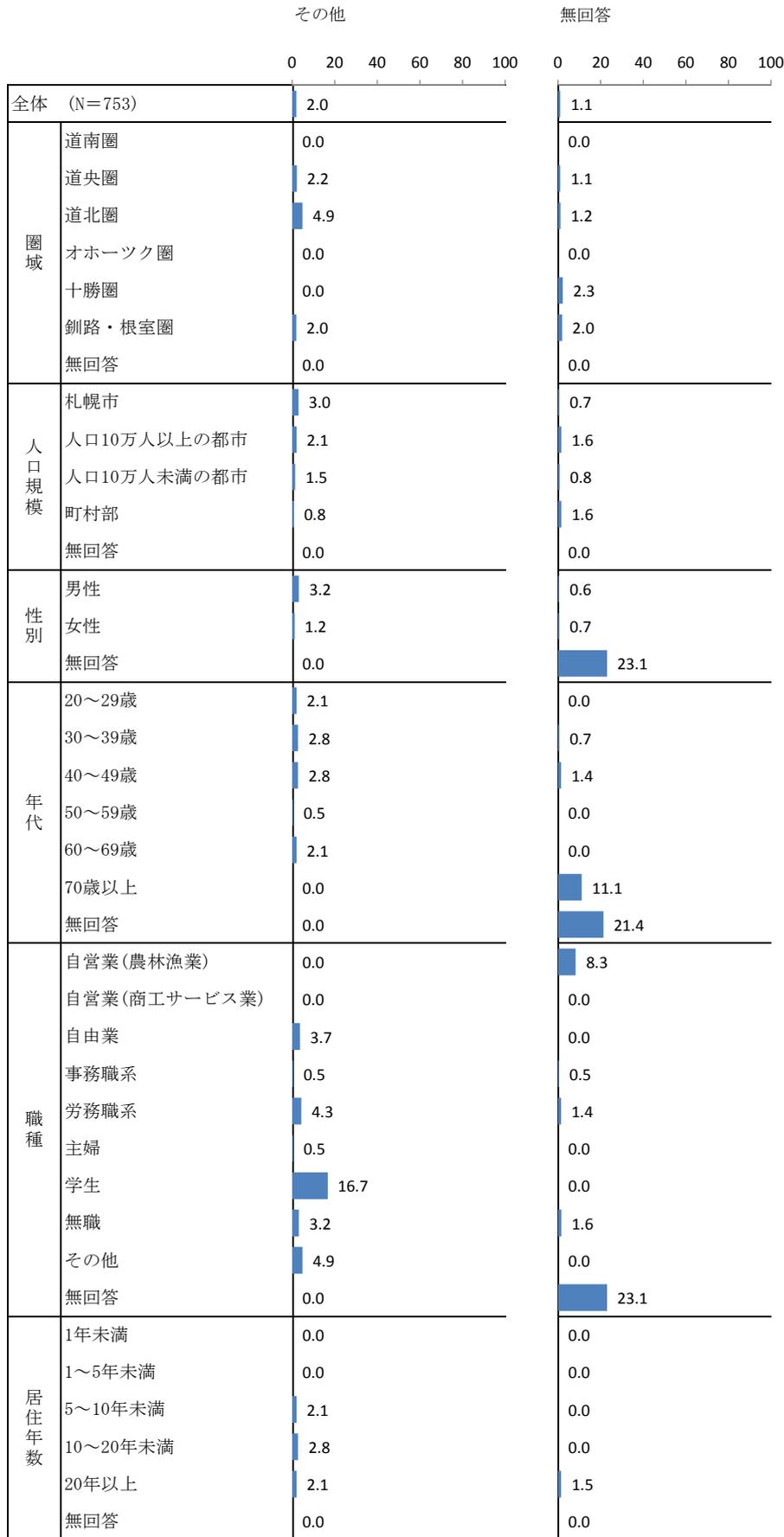
登下校時の児童の見守り活動

隣近所との見守り、声掛け

落書き消しなどの環境美化







「犯罪のない安全で安心な地域づくりについて」の調査を終えて

道内における平成 26 年中の刑法犯認知件数は 4 万 359 件で、平成 15 年以降 12 年連続で減少し、ピーク時の平成 14 年と比較すると半減しており、数値的な治安は改善傾向にあるものの、「犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じることはありませんか」の問に対し、「よくある」「たまにある」と答えた人の割合は未だ半数を超え、体感的な治安の改善は十分とは言えない状況にある。

しかし、「（阻害要因がなければ）防犯団体の活動に参加したい」と考える人が 7 割以上と、前回調査と比較して大幅に増加するなど、道民の自主防犯意識は着実に向上しており、また、「犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じる要因」を「地域のつながりが弱く近所の住民の顔をほとんど知らないから」と回答した人の割合が減少するなど、「安全・安心どさんこ運動」の目的のひとつである「地域の絆やコミュニティ機能の強化」が図られていることもうかがわれる。

こうした結果を踏まえ、今後も、関係機関・団体等と連携を図りながら、治安上の課題を的確に把握して対応するとともに、道民と一体となり、安全で安心して暮らすことのできる北海道の実現に向けて更なる取組を進めていく。

(環境生活部くらし安全局道民生活課)
(北海道警察本部生活安全部生活安全企画課)